

畜産クラスター計画

都道府県	地域	協議会の名称	作成年月日	更新年月日
北海道 豊浦町・洞爺湖町・壮瞥町・ 伊達市大滝区	とうや湖農協管内地域	とうや湖地域畜産クラスター 協議会	平成 27 年 3 月 12 日	平成 29 年 2 月 23 日

構成員と役割

構成員	事業内容又は事業手続に係る役割
とうや湖農業協同組合	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協議会事務局 2. (番号 1) 搾乳ロボット等のモデル農家からのデータ収集、検討会開催、経営体系確立、普及推進 3. (番号 1) コントラクター組織法人化の指導、作業事故防止の啓蒙 4. (番号 1) 酪農ヘルパー利用組合の運営に係る経費助成 5. (番号 2) 育成牛預託システムの利用調整、和牛受精卵・性判別精液の確保、乳質改善指導 6. (番号 2) 自衛防疫対策への経費助成、従業員確保への協力、検討会開催、エコフィールド調整技術指導、耕畜連携マッチング、ブランド豚肉の P R ・消費拡大の推進
サツラク農業協同組合	<ol style="list-style-type: none"> 1. (番号 2) 育成牛預託システムの利用調整、和牛受精卵・性判別精液の確保、乳質改善指導
畜産農家(33戸)	<ol style="list-style-type: none"> 1. (番号 1) 搾乳ロボット等のモデル的導入、データ提供、検討会参加、経営体系確立・普及の協力 2. (番号 1) コントラクターへの作業委託、講習会への参加 3. (番号 1) 酪農ヘルパーの利用拡大 4. (番号 1, 3) 公共牧場の利用拡大 5. (番号 2) 育成牛預託システムの実施、実証試験への協力、受精卵移植・性判別精液の利用拡大、定期的採卵の実施、乳質改善、ブランド化の定着 6. (番号 2) 地域生産分業体制の構築、検討会・講習会参加、エコフィールド利用拡大、耕畜連携、イベント協力

	7. (番号3)農地利用集積、草地整備・草地更新(自力を含む)の実施
コントラクター組織	1. (番号1)飼料生産用機械の導入、作業受託
豊浦町・洞爺湖町・壮瞥町・伊達市大滝区	1. (番号1)搾乳ロボット等の現地調査企画、普及推進 2. (番号1)コントラクター組織講習会の開催、新規設立の推進 3. (番号1)酪農ヘルパー利用組合の運営に係る経費助成 4. (番号1,3)公共牧場の利用推進、入牧料の負担軽減 5. (番号2)育成牛預託システムの情報提供、牛舎増改築への経費助成 6. (番号2)自衛防疫対策への経費助成、従業員確保への協力、ブランド豚肉のPR推進 7. (番号3)畜産農家の草地更新への経費助成、草地整備の経費負担軽減、農地集積の調整
胆振農業改良普及センター	1. (番号1)搾乳ロボット等のモデル農家からのデータ収集、検討会開催、経営体系確立、普及推進 2. (番号1)コントラクター組織の各種受託作業への技術指導 3. (番号1)畜産農家への飼養管理・経営技術指導 4. (番号2)畜産農家への堆肥製造技術指導、耕種農家への堆肥散布指導 5. (番号3)草地更新時等の種子選定助言、土壌分析に基づく施肥設計・指導
いぶりNOSA I	1. (番号1)酪農家への乳質改善指導 2. (番号2)自衛防疫対策の連携指導
とうや湖酪農振興会	1. (番号1)酪農家への乳質改善指導 2. (番号2)技術向上講習会の開催
とうや湖酪農ヘルパー利用組合	1. (番号2)酪農ヘルパー派遣依頼への対応
とうや湖和牛生産改良組合	1. (番号2)技術向上講習会の開催
とうや湖養豚振興会	1. (番号2)技術向上講習会の開催
(株)とかち繁殖技術研究所	1. (番号2)育成牛預託システムの実施、実証試験への協力、受精卵移植の利用拡大、定期的採卵の実施、ブランド化の定着
ホクレン農業協同組合連合会 畜産生産課	1. (番号2)養豚経営における検討会開催、経営技術の内容分析、情報提供

各機械メーカー等	1.(番号1)施設付帯装置や機械の提供・技術的アドバイス・先端技術情報の提供・巡回サービスの実施
----------	--

※ 「事業内容又は事業手続きに係る役割」欄には、「1目的」に記載される番号に係る取組毎の役割を記載する。

1 目的

番号	テーマ	目 的
1	<p>《重点テーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働負担の軽減 <p>《付随テーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼養規模の拡大・飼養管理の改善 ・自給飼料の拡大 	<p>《現状（直近数年間の状況変化）》</p> <p>酪 農</p> <p>当地域においては、高齢化の進行に歯止めがかからず、年々農家は減少の一途を辿っている。一方、各種事業の導入により、地域内の粗飼料生産基盤維持・拡大と法人化や個別酪農家の飼養頭数増頭による飼養規模拡大を図りつつ、自走式ハーベスター等を始めとする大型作業機械の導入による共同作業化の推進により作業効率向上及び労働力負担の軽減を図ってきた。しかし、共同作業に携わるオペレーターは各酪農家の主たる経営者で共同作業への出労に難が生じているとともに、当地域における粗飼料作付地は急斜面（12～16度）が多く、現有の機械ではその能力を十分発揮することができず作業効率が非常に悪い。このため、作業ローテーションがうまくいかず自給粗飼料の収穫が適期収穫幅を超える等に苦慮している中で、個別経営における労働力負担軽減や規模拡大が進まない状況となっており、作業効率向上と労働負担軽減のため大型機械を導入し適期収穫による良質粗飼料の確保が重要である。</p> <p>また、施設においては老朽化が進み非効率的な牛舎が多く、搾乳や育成管理作業・飼料給与等に時間的無駄が生じ、飼養頭数の拡大等地域酪農振興に大きく支障をきたしている。</p> <p>町は施設新築・改修や機械・機器導入や草地自力更新、更には優良繁殖雌牛造成等に係る費用負担軽減を図るべく助成を行っている。また、JAは増頭のための無利息による家畜貸付制度の実施している。しかし、高齢化が進展するなか施設新築や改修には多額の費用を要し、現状での資金投資は非常に難しい状況にある。</p>

【事業等の取組】

- ・平成17年～畜産担い手育成総合整備事業【豊浦地区】（草地整備・搾乳牛舎整備・スリープ整備）
豊浦町は事業費に対する助成を実施
- ・平成27年～畜産担い手育成総合整備事業【西いぶり地区】（草地整備・育成舎整備）
各市町は事業費に対する助成を実施
- ・平成22年～自力草地更新事業（豊浦町・伊達市）
事業費に対する助成の実施
- ・平成26年～ホクレン緊急搾乳牛増頭対策事業
乳用雌牛の増頭に対する奨励金支払制度の実施
- ・平成27年～JA単独家畜貸付事業（乳牛・肉牛増頭対策）
増頭のための無利息による家畜貸付制度の実施

区分	過年度			現況	目標年度	構成割合(%)		
	H15	H25	H26	H27	H32	H15	H27	H32
戸数合計	32	24	23	22	18	100.0	100.0	100.0
50才以下	20	7	7	6	8	62.5	27.3	44.4
51～60才	8	9	9	7	4	25.0	31.8	22.2
61～70才	4	6	5	7	6	12.5	31.8	33.3
71～	0	2	2	2	0	0.0	9.1	0.0

肉用牛

当地域では肉用牛と畑作の複合経営が約63%と多く、家畜ふん尿処理については経営内循環形態を取ることで地力の向上を図っている。しかし、高齢化の進行や担い手不足による労働力不足に加え、飼料・燃料・生産資材の価格高騰、さらには施設・設備の老朽化により繁殖牛増頭が困難な状況にあり、畑作専業への経営転換や離農に歯止めかからず、年々戸数減少の一途を辿っている。しかし一方では、草地畜産基盤整備事業の活用による草地の整備（大区画化等）や市町の経費助成を受けた自力草地更新により計画的な粗飼料生産基盤維持・拡大を図りつつ、担い手対策については新規就農者を中心に普及センターとJAが連携し草地管理や繁殖・育成牛の飼養管理、複式農業簿記等について指導し担

い手育成を図っている。

また、肉牛の増頭を図るため、平成 18 年より酪農家のホルスタインを借り腹とする受精卵移植を開始、さらに優良繁殖雌牛から受精卵を採卵し受精卵移植による優良繁殖雌牛群の造成を進めてきた。

一方、肉牛経営においても高齢化の進展に歯止めがかからず、担い手不足も相まって労働力不足が恒常的になっている。特に牧草収穫作業等での機械作業が重圧になっている場面が多く見られる。

【事業等の取組】

- ・平成 17 年～畜産担い手育成総合整備事業（草地整備）

豊浦町は事業費に対する助成を実施

- ・平成 27 年～畜産担い手育成総合整備事業（草地整備）

各市町は事業費に対する助成を実施

- ・平成 22 年～自力草地更新(豊浦町・伊達市)

事業費に対する助成を実施

- ・平成 22 年～肉用経営安定対策(優良精液)・(優良繁殖牛導入事業)（豊浦町・洞爺湖町・伊達市）

事業費に対する助成を実施

- ・平成 26 年～新規就農者畜産環境整備事業（豊浦町）

事業費に対する助成の実施

- ・平成 27 年～JA 単独家畜貸付事業（乳牛・肉牛増頭対策）

増頭のための無利息による貸付

- ・育種価判明の為の平準化事業参加

- ・優良雌牛生産の為の計画交配、計画採卵の実施

表 肉牛農家戸数及び年齢構成の推移

区分	過年度				現況	目標年度	構成割合(%)		
	H23	H24	H25	H26	H27	H32	H23	H27	H32
戸数合計	52	49	48	46	43	40	100.0	100.0	100.0
50才以下	14	13	11	11	11	9	26.9	25.6	22.5
51～60才	20	19	17	15	15	10	38.5	34.9	25.0
61～70才	13	12	15	15	12	16	25.0	27.9	40.0
71～	5	5	5	5	5	5	9.6	11.6	12.5

《対策を講じない場合に予想される将来の状況》

酪農

平成27年に酪農家2戸が高齢化・後継者不在に伴う過重労働を理由に離農の意向を有している。しかし、一部には増頭に向けての施設整備を進めている農家もあるが、大半の酪農家は高齢化と併せ粗飼料調製・給餌作業、育成牛舎の清掃作業が重労働なため、酪農ヘルパーを活用しても労働環境の改善は難しい。さらに施設・付帯機械等(搾乳機械)の構造が古いことや施設老朽化に伴う過重労働も多く、施設の新設・改修、効率的な機械化・先端技術の導入による労働負担軽減対策を講じないかぎり経営規模縮小・離農は避けられず不耕作地の増加が懸念される。

搾乳形態推移

	スタンション	FS(MP)	FS(搾ロボ)	戸数合計	経産牛頭数	出荷乳量(t)
過去 H25	20	2	2	24	978	7,525
現状 H27	18	2	2	22	944	7,565
予測 H32	14	2	2	18	885	7,126
増減(予測-現状)	△4	0	0	△4	△59	△439

肉用牛

肉用牛飼養農家の規模縮小・経営中止が進む中、経営規模拡大に向け離農跡地の利用を進めているが、高齢化・担い手不足に起因する労働力不足は解消できず、規模縮小や部門経営転換による肉用牛飼養戸数及び飼養頭数の減少は避けられない。

経営規模推移								
繁殖牛	5頭以下	10頭以下	30頭以下	50頭以下	51頭以上	戸数合計	繁殖牛頭数	素牛出荷頭数
過去 H25	13	13	14	2	6	48	1,337	758
現状 H27	7	18	10	3	5	43	1,301	576
予測 H32	3	16	10	3	5	37	1,276	556
増減(予測-現状)	△ 4	△ 2	0	0	0	△ 6	△ 25	△ 20

《目的（将来（5年後）目指す姿）》

酪農

モデル的な牛舎整備として、搾乳ロボットや自動給餌機等の省力化機械の導入と牛舎の新設・改修を行い、その効果を検証しながら地域内の他酪農家へ普及していく。

飼養規模の拡大により必要な粗飼料基盤拡充に伴う飼料栽培管理や収穫作業に対する労働負荷増加と適期収穫幅での収穫作業が困難となる可能性が高いため、（株）コントラクター組織を設立し大型収穫機械等の導入と地元他業種との連携により適期内作業による良質粗飼料確保と労働力軽減に努める。また、個別経営体においても規模拡大農家や傾斜地が多い等地理的条件の厳しい農家については、作業環境に適した収穫関連機械等の高性能大型作業機械等の導入を図り、労働時間を削減し、飼養規模の拡大や担い手の確保を進める。

町・JAは施設補改修への一部助成や補助事業活用後の補助残融資に係る利子補給等により農家負担の軽減処置を講じながら、これら生産拡充やコントラクター組織充実による生産基盤強化と町の施策である担い手対策を併合させ、酪農ヘルパーの利用拡大による定期的な休暇の取れる「ゆとりある経営」で農家師弟に夢のある酪農経営を伝承し、地域酪農の持続的な発展を図る。

搾乳形態推移						
	スタンション	FS(MP)	FS(搾ロボ)	戸数合計	経産牛頭数	出荷乳量(t)
過去 H25	20	2	2	24	978	7,525
現状 H27	18	2	2	22	944	7,565
目標 H32	14	1	3	18	1,030	8,703
増減(目標-現状)	△ 4	△ 1	1	△ 4	86	1,138

コントラクター組織設立	単位：ha			参加戸数	
	1番草	2番草	コーン	酪農	肉牛
現状 H27	290.5	263.5	112.0	5	1
設立 H28	325.5	298.5	112.0	6	2
目標 H32	419.0	392.0	112.0	6	2
増減(目標－現状)	128.5	128.5	0.0	1	1

肉用牛

飼養規模の拡大により必要な粗飼料基盤拡充に伴う飼料栽培管理や収穫作業に対する労働負荷増加と適期収穫幅での収穫作業が困難となる可能性が高いため、(株)コントラクター組織を設立し大型収穫機械等の導入と地元他業種との連携により適期内作業による良質粗飼料確保と労働力軽減に努める。また、個別経営体においても規模拡大農家や傾斜地が多い等地理的条件の厳しい農家については、作業環境に適した収穫関連機械等の高性能大型作業機械等の導入を図り、労働時間を削減し、飼養規模の拡大や担い手の確保を進める。さらに、夏期における給餌等の飼養管理作業の負担を軽減するため、公共牧場や自家放牧地への放牧を推進するとともに、放牧により足腰の強い和牛繁殖牛の育成を図る。

町・JAは施設補改修への一部助成や補助事業活用後の補助残融資に係る利子補給等により農家負担の軽減処置を講じながら、これら生産拡充やコントラクター組織充実による生産基盤強化と町の施策である担い手対策を併合させ、農家師弟に夢のある肉牛経営を伝承し、地域肉牛の持続的な発展を図る。

経営規模推移						戸数合計	繁殖牛頭数	素牛出荷頭数	
	繁殖牛	5頭以下	10頭以下	30頭以下	50頭以下				51頭以上
過去 H25		13	13	14	2	6	48	1,337	758
現状 H27		7	18	10	3	5	43	1,301	576
目標 H32		3	16	8	5	5	37	1,391	656
増減(目標－現状)		△4	△2	△2	2	0	△6	90	80

コントラクター組織設立			単位：ha		
	1番草	2番草	コーン	参加戸数	
				酪農	肉牛
現状 H27	290.5	263.5	112.0	5	1
設立 H28	325.5	298.5	112.0	6	2
目標 H32	419.0	392.0	112.0	6	2
増減(目標－現状)	128.5	128.5	0.0	1	1

2	<p>《重点テーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼養規模の拡大・飼養管理の改善 <p>《付随テーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働負担の軽減 ・自給飼料の拡大 	<p>《現状（直近数年間の状況変化）》</p> <p>酪農</p> <p>当地域においては、高齢化の進行に歯止めがかからず、年々農家は減少の一途を辿っている。一方、各種事業の導入により、地域内の粗飼料生産基盤維持・拡大と法人化や個別酪農家の飼養頭数増頭による飼養規模拡大を図りつつ、自走式ハーベスター等を始めとする大型作業機械の導入による共同作業化の推進により作業効率向上及び労働力負担の軽減を図ってきた。しかし、共同作業に携わるオペレーターは各酪農家の主たる経営者で共同作業への出労に難が生じているとともに、当地域における粗飼料作付け地は急斜面（12～16度）が多く、現有の機械ではその能力を十分発揮することができず作業効率が非常に悪い。このため、作業ローテーションがうまくいかず自給粗飼料の収穫が適期収穫幅を超える等に苦慮している中で、個別経営における労働力負担軽減や規模拡大が進まない状況となっている。作業効率向上と労働負担軽減のため大型機械を導入し適期収穫による良質粗飼料の確保が重要である。また、施設においては老朽化が進み非効率的のな牛舎が多く、搾乳や育成管理作業・飼料給与等に時間的無駄が生じ、飼養頭数の拡大等地域酪農振興に大きく支障をきたしており経産牛頭数及び出荷乳量は減少傾向で推移している。町は施設新築・改修や機械・機器導入や草地自力更新、更には優良繁殖雌牛造成等に係る費用負担軽減を図るべく助成を行っている。また、JAは増頭のための無利息による家畜貸付制度の実施している。しかし、高齢化が進展するなか施設新築や改修には多額の費用を要し、現状での資金投資は非常に難しい状況にある。</p> <p>地域の酪農振興のためには飼養規模の拡大が重要であり、飼料基盤の拡充と安定的な粗飼料の確保を図りつつ、非効</p>
---	---	--

率的な旧施設の新築・改修等による作業効率向上と労働負担の軽減を行いながら、飼養規模の拡大を図りつつ適切な飼養管理による販売乳量の増加が重要である。

肉用牛

当地域では肉用牛と畑作の複合経営が約 63%と多く、家畜ふん尿処理については経営内循環形態を取ることで地力の向上を図っている。しかし、高齢化の進行や担い手不足による労働力不足に加え、飼料・燃料・生産資材の価格高騰、さらには施設・設備の老朽化により繁殖牛増頭が困難な状況にあり、畑作専業への経営転換や離農に歯止めがかからず、年々戸数減少の一途を辿っており、繁殖牛の飼養頭数や素牛出荷頭数は減少している。

担い手対策については、新規就農者を中心に普及センターと J A が連携し草地管理や繁殖・育成牛の飼養管理、複式農業簿記等について指導し、担い手育成を図っている。また、肉牛の増頭を図るため、平成 18 年より酪農家のホルスタインを借り腹とする受精卵移植を開始、さらに優良繁殖雌牛から採卵した受精卵の移植による優良繁殖雌牛群の造成を進めてきた。

一方、肉牛経営においても高齢化の進展に歯止めがかからず、担い手不足も相まって労働力不足が恒常的になっている。特に牧草収穫作業等での機械作業が重圧になっている場面が多く見られる。

地域の肉牛振興のためには、飼養規模の拡大が重要であり、受精卵移植による後継牛の確保を推進しながら、高性能大型作業機械の導入による飼料基盤の拡充と安定的な粗飼料の確保を図り、非効率的な旧施設の新築・改修等による作業効率向上と労働負担の軽減により、飼養規模の拡大を図りつつ適切な飼養管理による繁殖牛と素牛出荷頭数の増加が課題となっている。

養 豚

地域養豚振興を目的とし町・ J A 連携のもと、平成 10 年から当時 15 戸あった養豚農家（内複合経営 10 戸、67%）の生産規模拡大による生産基盤強化と地域ブランドとして長い歴史を持つ産地銘柄豚（※ 1）保持のため法人化の推進と併せ、非効率的な旧施設改善のため低コストな養豚バイオハウス設置を推進してきた。また、平成 18 年には受精部門の労働力軽減を図るため人工授精技術導入と飼養管理技術習得及び向上のための講習会等の開催を行ってきた。この結果、平成 10 年に 3 戸 1 法人（養豚 2 戸、耕種 1 戸）、平成 16 年に 2 戸 1 法人（養豚 1 戸、耕種 1 戸）が設立され地域養豚

生産拡大に大きく貢献してきた。一方、高齢化に伴い新規施設設置が可能な農家は限られ、更なる労働力不足・既存施設老朽化に加え、飼料高騰・豚価の下落等の影響により、平成 26 年迄に法人を含む 12 戸が養豚経営を中止し、現在では農業法人 2 戸と養豚・畑作複合農家 1 戸の 3 戸まで減少している。T P P 交渉の大筋合意による国内産豚肉の価格下落が懸念されるなど、養豚経営を巡る環境は厳しさを増すなか、残された養豚農家で産地銘柄豚を保持するためには、地域における生産体制の再構築（繁殖育成センター設立と肥育専門化のツーサイト方式による分業）を図り、繁殖豚の頭数確保と、肉豚出荷の増頭を進めていくことが重要である。現在、存続している法人を含む 3 戸は繁殖・肥育一貫経営であり、耕畜連携により畜糞は地域耕種農家に供給され土づくりによる生産性向上に寄与している。

※1 産地銘柄豚

当地域では、（養豚業の歴史・・・昭和 20 年代から残飯・その他飼料を与えて正月用の収入のために飼育が始まり、昭和 30 年頃から多頭化するようになり土地作りを兼ねて養豚業が行われた。その後昭和 36 年から農協は積極的に養豚の多頭化飼育に力を入れ種豚場が建設され養豚会議を設立。その後昭和 44 年養豚家 30 名によって養豚振興会に改称し昭和 45 年から出荷頭数 1 万頭を目指し規模拡大を図り豊浦町の養豚は大きく発展した。）昭和 20 年代から 60 年以上かけ豚肉の産地化に取り組んできた。平成 10 年頃から養豚の産地化だけでなく、地域関係者と地域住民の連携、さらに愛着を持つことによる地域全体の活性化を図ることを目的に産地銘柄豚「とようら元気豚」として P R を行い始めた。その後、養豚農家の減少や法人化に伴い銘柄豚の品種の変化により「とようらポーク」を産地銘柄として P R し、平成 27 年には、「とようらポーク」として地域ブランドを確立するために地域団体商標を申請している。

現在は、各地イベント等で産地銘柄豚「とようらポーク」を P R することで地域の活性化の推進に取り組んでいる。特に毎年 6 月に豊浦町で開催される「いちご豚肉まつり」では、3 万人が来場するなど「とようらポーク」に対する道内外の消費者への理解促進に大きく貢献している。

表 養豚農家戸数及び年齢構成の推移

区分	過年度			現況	目標年度	構成割合(%)		
	H10	H15	H25	H27	H32	H15	H27	H32
戸数合計	15	11	5	3	3	100.0	100.0	100.0
50才以下	9	5	3	1	1	45.5	33.3	33.3
51～60才	4	2	1	1	1	18.2	33.3	33.3
61～70才	2	3	1	1	1	27.3	33.3	33.3
71～	0	1	0	0	0	9.1	0.0	0.0

【事業等の取組】

- ・平成10年～養豚バイオハウス施設（肥育舎）
個人経営による肥育用バイオハウス建設事業費に対し町は支援した。
- ・平成10年～畜産再編総合対策事業他（法人化）
法人経営による肥育一貫経営に対し、JAは出荷に関わる運賃や諸手数料、種豚導入に対しを支援した。
- ・平成16年～畜産振興総合対策事業（法人化）
法人経営による肥育一貫経営に対し、事業費への支援（国50%・町12.5%）JAは出荷に関わる運賃や諸手数料を支援した。

《対策を講じない場合に予想される将来の状況》

酪農

平成27年に酪農家2戸が高齢化・後継者不在に伴う過重労働を理由に離農の意向を有している。しかし、一部には増頭に向けての施設整備を進めている農家もあるが、大半の酪農家は高齢化と併せ粗飼料調製・給餌作業、育成牛舎の清掃作業が重労働なため、酪農ヘルパーを活用しても労働環境の改善は難しい。「育成牛預託システム」の活用による労働負担軽減対策や性判別精液の利用による後継牛確保対策を講じないかぎり、経営規模縮小・離農は避けられず、これに伴う経産牛頭数と出荷乳量の減少につながるとともに不耕作地の増加が懸念される。

肉用牛

地域全体として高育種価牛の受精卵移植による増頭や規模拡大に伴う牛舎等の施設整備を行わないかぎり、高齢化・担い手不足に起因する規模縮小や部門経営転換による肉用牛飼養戸数及び飼養頭数の減少は避けられない。

養 豚

当地域で産地銘柄豚“とようらポーク”として長い歴史を持つ養豚経営において、戸数・飼養頭数の減少に歯止めをかけるべく法人化や低コストバイオハウスの設置等を積極的に推進してきたが、高齢化・担い手不足等による他作目への転換や経営中止等極めて深刻な状況にある。

現在存続する法人を含む3戸の経営体については、大幅な飼養規模拡大に向け計画樹立中であるが、生産構造の改善をしなければ増頭は不可能である。

経営規模推移	繁殖50頭以下	繁殖100頭以上	戸数合計	繁殖豚頭数	肉豚出荷頭数
過去 H25	3	2	5	1,112	24,449
現状 H27	1	2	3	1,028	24,780
予測 H32	1	2	3	1,028	24,447
増減(予測－現状)	0	0	0	0	△ 333

《目的（将来（5年後）目指す姿）》

酪 農

当地域では平成27年3月より酪農家における育成牛飼養管理に係る労働力軽減と増頭を図るため、酪肉連携による“育成牛預託システム”を試行的に行っている。このシステムは概ね生後約7ヶ月経過後のホル子牛を中核的肉用牛農家に預託し、優良黒毛和種の受精卵を移植した後分娩2ヶ月前に酪農家に返却し、分娩した黒毛和種子牛は主に肉牛農家に販売する。

また、平成28年度より、低コスト・小規模な酪農家の育成牛預託システムの構築のため、伊達市大滝地区の酪農家、

肉牛農家、壮瞥地区の肉牛農家(高育種価牛の採卵)の連携による体制の実証試験に取り組み、地域内における小規模な肉牛農家が多く規模縮小が進んでいる地区に、牛舎の空きスペースを利用した施設の改修を行わない増頭を目指した育成牛預託システムを普及する。

このシステムの利用により酪農家は、性判別精液を利用した産子を後継牛として確保できるだけでなく、育成管理に係る労働力の軽減も図られ、育成牛管理スペースを有効に活用して増頭をする。

肉用牛

当地域では平成27年3月より酪肉連携による“育成牛預託システム”を試行的に行っている。このシステムは概ね生後約7ヶ月経過後のホル子牛を中核的肉牛農家に預託し、優良黒毛和種の受精卵を移植した後分娩2ヶ月前に酪農家に返却し分娩した黒毛和種子牛は主に肉牛農家に販売する。このシステムの活用により肉牛農家は育種価判明繁殖雌牛の受精卵を活用した優良繁殖牛群の早期造成と自家生産販売子牛に加え受精卵移植で生産された子牛の供給により販売頭数増加につながり肉牛経営上に有利性をもたらす。また、レシピアントに相当する繁殖牛の発情管理・授精や分娩介護等から解放され、労働時間の軽減につながる。

平成28年度より、低コスト・小規模な酪農家の育成牛預託システムの構築のため、伊達市大滝地区の酪農家、肉牛農家、壮瞥地区の肉牛農家(高育種価牛の採卵)の連携による体制の実証試験に取り組み、地域内における小規模な肉牛農家が多く規模縮小が進んでいる地区に、牛舎の空きスペースを利用した施設の改修を行わない増頭を目指した育成牛預託システムを普及する。

また、本システムを活用しない肉牛農家を含め地域全体として高育種価牛の受精卵移植を推進しながら、施設新築・増築や作業効率の悪い施設の改修により繁殖雌牛の増頭体制を整え、飼養頭数を拡大する。

現在、定期的にホクレン十勝枝肉市場へ出荷している肥育牛を地域団体商標(申請中)である「とうや湖和牛」として、帯広市に建設中の対米輸出向け食肉加工施設を利用することで輸出を開始し、国内外へのブランド化を定着させる。

町・JAは施設補改修への一部助成や補助事業活用後の補助残融資に係る利子補給等により農家負担の軽減処置を講じながら、これら生産拡充やコントラクター組織充実による生産基盤強化と町の施策である担い手対策を併合させ、農家師弟に夢のある肉牛経営を伝承し、地域肉牛の持続的な発展を図る。

養 豚

従来の繁殖・肥育一貫経営から生産構造を改善し、繁殖育成センター設置により繁殖部門と肥育部門を完全に分離した飼養体系（ツーサイト方式）である「地域生産分業体制」を構築する。

この体制の構築により、家畜伝染病に対する危険分散と、繁殖管理技術と肥育管理技術体系に一貫性を持たせることができ、事故率の低減に繋がる。

また、繁殖育成センターの新設や既存施設の肥育舎への増改築等だけでなく、オートソーティングシステムなど労働力を大幅に軽減する装置を導入することで、生産者の負担を軽減し肥育豚の増頭を進める。飼養頭数の増加に伴い飼料確保が必要となることからエコフィードの利用により飼料の確保並びに生産コスト低減を図ることで収益性が大きく向上する。

この体制は、地域内の1経営体が繁殖育成センターの新設と既存施設の増築・改修だけでなく、将来的には繁殖センターから地域全体の肥育農家へ子豚を供給し肥育豚の増頭を図っていく体制作りを検討する。

また、食育を通じて当地域の産地銘柄豚“とようらポーク”を始めとした道産豚肉の消費拡大を推進しながら、繁殖育成センター等における人材確保を進め、地域内の生産頭数の増加により豚肉の安定した供給を可能とすることで地域全体の養豚生産活性化につなげる。

◎生産構造の改善<3経営体とも増頭：雇用の創出>

* 3経営体の内1経営体＝繁殖・肥育一貫経営⇒繁殖部門と肥育部門を分離（繁殖センター設置）

* 3経営体の内2経営体＝肥育経営⇒肥育経営継続⇒将来的に繁殖センターの増築より子豚を供給することを検討

経営規模推移					
	繁殖50頭以下	繁殖100頭以上	戸数合計	繁殖豚頭数	肉豚出荷頭数
過去 H25	3	2	5	1,112	24,449
現状 H27	1	2	3	1,028	24,780
目標 H32	1	2	3	2,500	65,000
増減(目標-現状)	0	0	0	1,472	40,220

3 《重点テーマ》
・自給飼料の拡大

《現状（直近数年間の状況変化）》
酪 農

<p>《付随テーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 労働負担の軽減 ・ 飼養規模の拡大、飼養管理の改善 	<p>当地域においては、高齢化の進行に歯止めがかからず、年々農家は減少の一途を辿っている。一方、各種事業の導入により、地域内の粗飼料生産基盤維持・拡大と法人化や個別酪農家の飼養頭数増頭による飼養規模拡大を図りつつ、自走式ハーベスター等を始めとする大型作業機械の導入による共同作業化の推進により作業効率向上及び労働力負担の軽減を図ってきた。</p> <p>また、草地畜産基盤整備事業の活用による草地の整備（大区画化等）や市町の経費助成を受けた自力草地更新により計画的な粗飼料生産基盤の維持・拡大を図りつつ、担い手対策については新規就農者を中心に普及センターとJAが連携し草地管理や繁殖・育成牛の飼養管理、複式農業簿記等について指導し、担い手育成を図っている。</p> <p>地域の酪農振興のためには、飼養規模拡大が必須であるが、増頭による飼料給与量の増加と並んで購入飼料費の増加が伴うことで生産費が高くなり経営の不安定化が懸念される。このため、自給粗飼料の拡大を図りながら、計画的な草地更新による生産性向上と適期収穫による良質粗飼料の確保等飼料基盤の拡充・強化による購入飼料費の軽減に向けた取り組みが重要である。</p> <p>肉用牛</p> <p>当地域では肉用牛と畑作の複合経営が約63%と多く、家畜ふん尿処理については経営内循環形態を取ることで地力の向上を図っている。しかし、高齢化の進行や担い手不足による労働力不足に加え、飼料・燃料・生産資材の価格高騰、さらには施設・設備の老朽化により繁殖牛増頭が困難な状況にあり、畑作専業への経営転換や離農に歯止めがかからず、年々戸数減少の一途を辿っている。</p> <p>また、草地畜産基盤整備事業の活用による草地の整備（大区画化等）や市町の経費助成を受けた自力草地更新により計画的な粗飼料生産基盤維持・拡大を図りつつ、担い手対策については新規就農者を中心に普及センターとJAが連携し草地管理や繁殖・育成牛の飼養管理、複式農業簿記等について指導し担い手育成を図っている。</p> <p>地域の肉牛振興のためには、飼養規模拡大が必須であるが、増頭による飼料給与量の増加と並んで購入飼料費の増加が伴うことで生産費が高くなり経営の不安定化が懸念される。このため、自給粗飼料の拡大を図りながら、計画的な草地更新による生産性向上と適期収穫による良質粗飼料の確保等飼料基盤の拡充・強化による購入飼料費の軽減に向けた取り組みが重要である。</p>
---	---

《対策を講じない場合に予想される将来の状況》

酪農

起伏発生による収穫量の低下、雑草の繁茂やマメ科牧草率の低下を改善するため、計画的な草地整備や草地更新を推進しなければ、粗飼料由来の養分摂取量が確保できず、これに伴う経産牛頭数と出荷乳量の減少につながり、経営の不安定化が懸念されるとともに不耕作地の増加が懸念される。

肉用牛

起伏発生による収穫量の低下、雑草の繁茂やマメ科牧草率の低下を改善するため、計画的な草地整備や草地更新を推進しなければ、粗飼料由来の養分摂取量が確保できず、これに伴う繁殖牛頭数と素牛出荷頭数の減少につながり、経営の不安定化が懸念されるとともに不耕作地の増加が懸念される。

《目的（将来（5年後）目指す姿）》

酪農

平成27年度から畜産担い手育成総合整備事業により、離農跡地等の不耕作地の利用など草地整備を順次行うとともに圃場条件の良い場所については自力による草地更新を同時に進めていく。また、粗飼料基盤拡充に伴う飼料栽培管理や収穫作業に対する労働負担増加と適期収穫幅での収穫作業が困難となる可能性が高いため、（株）コントラクター組織を設立し、地元他業種との連携により適期内作業による良質粗飼料確保と労働力軽減に努める。

また、土壌分析や堆肥分析による施肥設計をもとにした肥料施用を行うことで単収を伸ばすとともに、遊休化した農地を集積しながら飼料基盤を増やすことで粗飼料を確保する。

町・JAは事業費への一部助成や補助事業活用後の補助残融資に係る利子補給等により農家負担の軽減処置を講じながら、これら生産拡充やコントラクター組織充実による生産基盤強化と町の施策である担い手対策を併合させ、農家師弟に夢のある酪農経営を伝承し、地域酪農の持続的な発展を図る。

肉用牛

平成27年度から畜産担い手育成総合整備事業により、離農跡地等の不耕作地の利用など草地整備を順次行うとともに

		<p>圃場条件の良い場所については自力による草地更新を同時に進めていく。また、粗飼料基盤拡充に伴う飼料栽培管理や収穫作業に対する労働負担増加と適期収穫幅での収穫作業が困難となる可能性が高いため、(株)コントラクター組織を設立し、地元他業種との連携により適期内作業による良質粗飼料確保と労働力軽減に努める。</p> <p>また、土壌分析や堆肥分析による施肥設計をもとにした肥料施用を行うことで単収を伸ばすとともに、遊休化した農地を集積しながら飼料基盤を増やすことで粗飼料を確保する。</p> <p>さらに、配合飼料に頼らない給餌を目指し、夏期における公共牧場や自家放牧地への放牧を推進することで、自給飼料の利用拡大とともに足腰の強い和牛繁殖牛の育成を図る。</p> <p>町・JAは事業費への一部助成や補助事業活用後の補助残融資に係る利子補給等により農家負担の軽減処置を講じながら、これら生産拡充やコントラクター組織充実による生産基盤強化と町の施策である担い手対策を併合させ、農家師弟に夢のある肉牛経営を伝承し、地域肉牛の持続的な発展を図る。</p>
--	--	--

- ※ テーマは、「畜産クラスターによる推進が期待される取組類型」に記載された政策課題から選択、又は独自のテーマ設定も可。複数の「重点テーマ」の設定も可（3つ以上の場合適宜記載欄を追加のこと）。協議会が主として達成しようとする「重点テーマ」とその取組の付随的な効果として達成しようとするテーマがあれば「付随テーマ」として分けて記載。ただし、独自のテーマの場合は、地域の生産基盤の強化、収益性の向上に資するテーマであることが、目的の記述から明らかであること。
- ※ 目的は、「現状」、「対策を講じない場合に予想される将来の状況」を定量的に分析した記述を行うことで、「目的」の設定の必要性を明らかにすること。「目的（将来目指す姿）」は、「畜産クラスターによる推進が期待される取組類型」に記載された「目的」を参考に地域の実情に応じて具体的に記載すること。

2 協議会の取組内容

番号	目的達成のための取組（概要）	取組における中心的な経営体とその他の構成員の連携・役割分担
----	----------------	-------------------------------

		中心的な経営体	その他の構成員
1	<p>(労働負担の軽減)</p> <p><u>酪農</u></p> <p>モデル的な経営体系の確立のため、搾乳ロボット等の省力化機械の導入と牛舎の新設や補改修を行い、検討会における効果検証をしながら地域への普及促進を図る。また、高性能作業機械を導入することで、労働負担の軽減を図り、飼養規模拡大や担い手確保への障害を取り払い、良質な粗飼料や堆肥の生産技術を普及推進する。</p> <p>〔 都道府県計画等での位置づけ 搾乳ロボットなどの省力化対策 〕</p>	<p>酪農家5戸（(有)KBF、米田正次、山口一敏、渡部正昭、レークヒル牧場）は、モデル的に搾乳ロボットや自動給餌機等を導入した牛舎を新設し、経営状況等のデータ提供や検討会に参加し、経営体系の確立や普及に協力する。</p> <p>地域全体で飼養規模拡大や担い手確保への障害を取り払うため、必要な飼料収穫調製機械や堆肥調整機械等を導入し、効率的で良質な飼料や堆肥生産技術講習会に参加する。</p>	<p>豊浦町、洞爺湖町、伊達市大滝区は、担い手確保のため作業省力化を推進、普及に努める。</p> <p>J Aとうや湖、農業改良普及センターは、省力化機械を導入した農家から経営状況等のデータを収集し、検討会を開催し、普及を進める。また、飼料や堆肥生産の講習会を開催し、生産技術の向上を推進する。</p> <p>酪農家11戸は、検討会に参加し、地域における経営体系の確立に協力する。また、講習会に参加し、生産技術の向上に努める。</p> <p>機械メーカーは、搾乳ロボット等の省力化機械の機種選定や使用時における指導を行う。</p>
	<p>(労働負担の軽減)</p> <p>コントラクター組織を設立し、各種飼料生</p>	<p>コントラクター組織は、トラクターや飼料収穫用</p>	<p>豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大</p>

<p>産用機械を導入しながら受託農家及び面積を拡大することで、酪農家・肉牛農家の労働負担を軽減する。</p> <p style="text-align: center;">〔 都道府県計画等での位置づけ 地域営農支援システムづくり 〕</p>	<p>機械を導入し、酪農家の飼料生産作業を受託する。</p>	<p>滝区は、コントラクター組織講習会を開催して利用拡大と新規組織の設立を推進する。</p> <p>JAとうや湖は、コントラクター組織法人化への指導、各種受託作業における事故防止のため安全作業を啓蒙する。</p> <p>農業改良普及センターは、各種受託作業に係る技術的な指導をする。</p> <p>酪農家6戸、肉牛農家2戸は、飼料生産における各種作業委託をする。</p> <p>酪農家5戸、肉牛農家2戸は、コントラクター組織講習会に参加する。</p>
<p>(労働負担の軽減)</p> <p>搾乳作業における酪農家の負担を軽減するため、酪農ヘルパーの積極的な利用を推進する。</p> <p style="text-align: center;">〔 都道府県計画等での位置づけ 地域営農支援システムづくり 〕</p>	<p>酪農家は、酪農ヘルパーの利用日数を拡大する。</p>	<p>JAとうや湖、豊浦町、洞爺湖町、伊達市大滝区は、酪農ヘルパー組合の運営費を助成する。</p> <p>酪農ヘルパー組合は、酪農家からの派遣依頼に対応する。</p>
<p>(労働負担の軽減)</p> <p>肉用牛</p>	<p>地域全体で飼養規模拡大や担い手確保への障</p>	<p>豊浦町、洞爺湖町、伊達市大滝区は、</p>

<p>酪農家と同様に高性能作業機械を導入することで、労働負担の軽減を図り、飼養規模拡大や担い手確保への障害を取り払い、良質な粗飼料や堆肥の生産技術を普及推進する。</p> <p style="text-align: center;">〔 都道府県計画等での位置づけ 搾乳ロボットなどの省力化対策 〕</p>	<p>害を取り払うため、必要な飼料収穫調製機械や堆肥調整機械等を導入し、効率的で良質な飼料や堆肥生産技術講習会に参加する。</p>	<p>担い手確保のため作業省力化を推進、普及に努める。</p> <p>JAとうや湖、農業改良普及センターは、現地調査及び省力化機械を導入した農家から経営状況等のデータを収集し、普及を進める。</p> <p>機械メーカーは、省力化機械の機種選定や使用時における指導を行う。</p>
<p>(労働負担の軽減)</p> <p>コントラクター組織を設立し、各種飼料生産用機械を導入しながら受託農家及び面積を拡大することで、酪農家・肉牛農家の労働負担を軽減する。</p> <p style="text-align: center;">〔 都道府県計画等での位置づけ 地域営農支援システムづくり 〕</p>	<p>コントラクター組織は、トラクターや飼料収穫用機械を導入し、肉牛農家の飼料生産作業を受託する。</p>	<p>豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区は、コントラクター組織講習会を開催して利用拡大と新規組織の設立を推進する。</p> <p>JAとうや湖は、コントラクター組織法人化への指導、各種受託作業における事故防止のため安全作業を啓蒙する。</p> <p>農業改良普及センターは、各種受託作業に係る技術的な指導をする。</p> <p>酪農家6戸、肉牛農家2戸は、飼料生産における各種作業委託をする。</p>

		酪農家5戸、肉牛農家2戸は、コントラクター組織講習会に参加する。
<p>(労働負担の軽減)</p> <p>飼養管理、繁殖管理作業における肉牛農家の負担を軽減するため、公共牧場の積極的な利用を推進する。</p> <p>都道府県計画等での位置づけ 自給飼料の有効活用と生産コストの低減</p>	肉牛農家3戸（北翔産業、高井一英、安孫子渉）は、公共牧場への繁殖牛の放牧預託を増頭する。	豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区は、公共牧場の入牧料を助成し、肉牛農家の積極的な利用を推進する。

2	<p>(飼養規模の拡大・飼養管理の改善)</p> <p><u>酪農</u></p> <p>酪農家と肉牛農家が連携した「育成牛預託システム」を活用し、酪農家が育成牛を預託し、肉牛農家が受託した育成牛を初任牛として返還することで酪農家の飼養管理における作業負担を軽減しながら、後継牛を確保する。</p> <p>また、施設から排出される糞尿を、豊浦町が実施するバイオマスプラントへ提供する。</p> <p>都道府県計画等での位置づけ 酪農と肉用牛生産の連携協調 後継牛の確保</p>	<p>酪農家は肉牛農家と「育成牛預託システム」を実施し、預託頭数の拡大推進、小規模システム確立への協力をする。</p> <p>酪農家9戸は、性判別精液の利用を拡大し、後継牛を確保する。</p> <p>奥澤隆は堆肥を豊浦町が建設するバイオマスプラントへ提供する。</p>	<p>豊浦町、洞爺湖町、伊達市大滝区は、育成牛預託システムの情報提供、牛舎増改築等への助成をする。</p> <p>豊浦町はバイオマスプラントを建設し地域内畜産生産者より糞尿の提供を受け発電事業を展開し地域内へ貢献する。</p> <p>J Aとうや湖、計画的な預託システム運用の利用調整、和牛受精卵の確保、性判別精液の利用選択、乳質改善等の指導をする。</p> <p>農業改良普及センターは、育成牛の飼養管理指導、技術指導を行う。</p> <p>いぶり農業共済組合、乳質改善等の指導をする。</p> <p>とうや湖酪農振興会は、乳質改善等の</p>

			指導、技術向上講習会を開催する。
	<p>(飼養規模の拡大・飼養管理の改善)</p> <p><u>肉用牛</u></p> <p>酪農家と肉牛農家が連携した「育成牛預託システム」を活用し、酪農家が育成牛を預託し、肉牛農家が受託した育成牛を初任牛として返還することで酪農家の飼養管理における作業負担を軽減しながら、後継牛を確保する。</p> <p>都道府県計画等での位置づけ 酪農と肉用牛生産の連携協調 後継牛の確保</p>	<p>肉牛農家は酪農家と「育成牛預託システム」を実施し、預託頭数の拡大推進、小規模システム確立への協力をする。</p> <p>山田達彦は、繁殖牛舎を増築し「育成牛預託システム」等の産子を受け入れる。</p> <p>肉牛農家3戸は、(株)とかち繁殖技術研究会による採卵を実施し、地域内の和牛受精卵を確保する。</p> <p>肉牛農家は、和牛肉の輸出を目指し、国内外へのブランド化の定着を図る。</p>	<p>豊浦町、洞爺湖町、伊達市大滝区は、育成牛預託システムの情報提供、牛舎増改築等への助成をする。</p> <p>豊浦町はバイオマスプラントを建設し地域内畜産生産者より糞尿の提供を受け発電事業を展開し地域内へ貢献する。</p> <p>J Aとうや湖、計画的な預託システム運用の利用調整、和牛受精卵の確保をする。</p> <p>農業改良普及センターは、育成牛の飼養管理指導、技術指導を行う。</p> <p>いぶり農業共済組合は、乳質改善等の指導をする。</p> <p>(株)とかち繁殖技術研究所は、定期的な採卵への取組支援並びに受精卵移植技術の普及支援をする。</p>

			<p>とうや湖和牛生産改良組合は、技術向上講習会を開催する。</p>
	<p>(飼養規模の拡大・飼養管理の改善)</p> <p><u>養 豚</u></p> <p>従来の繁殖・肥育一貫経営から生産構造を改善し、繁殖育成センター設置により繁殖部門と肥育部門を完全に分離した飼養体系（ツースイト方式）である「地域生産分業体制」を構築するとともに、繁殖成績や飼養管理技術の向上を図るため、検討会や講習会を開催しながら飼養頭数を増加させる。</p> <p>また、飼養規模の拡大により排出された糞尿を、豊浦町が実施するバイオマスプラントへ提供する効果・検証に協力する。</p> <p>〔 都道府県計画等での位置づけ 地域営農支援システムづくり 〕</p>	<p>(有)ゲズント農場は繁殖センター並びに肥育施設を新設し繁殖豚、肥育頭数を増頭し、繁殖技術や肥育技術を地域養豚生産者へ情報提供する。</p> <p>養豚農家3戸（(有)ゲズント農場、(有)フロイデ農場、入船敏光）は、検討会や講習会に参加し、次により「地域生産分業体制」を構築する。</p> <p>(有)ゲズント農場は、繁殖育成センターを建設、将来的に地域肥育農家への子豚供給することを視野に入れる。又、肥育豚舎の新設、既存施設の改修等により肥育豚を増頭する。</p> <p>(有)フロイデ農場、入船敏光は、将来的に繁殖育成センターからの子豚供給、肥育豚舎の新設、既存施設の改修等により肥育豚を増頭する。</p> <p>養豚農家3戸は、エコフィールド利用の推進、耕畜連携への取り組み、イベントへの協力をする。</p>	<p>豊浦町は、自衛防疫対策への助成、従業員確保への協力、ブランド豚肉のPRを推進する。又、バイオマスプラントを建設し地域内畜産生産者より糞尿の提供を受け発電事業を展開し地域内へ貢献する。</p> <p>J Aとうや湖は、自衛防疫対策への助成、従業員確保への協力、検討会を開催する。また、エコフィールドの調整技術の協力、堆肥還元のマッチング、ブランド豚肉のPR、消費者交流による消費拡大を推進する。</p> <p>農業改良普及センターは、堆肥製造の技術指導、散布時の指導を行う。</p> <p>ホクレン農業協同組合連合会は、検討会の開催、販売先の探索をする。</p>

		<p>(有)ゲズント農場は新規施設から排出される糞尿を豊浦町で建設するバイオマスプラントに提供し、発電事業等へ貢献する。</p> <p>養豚農家3戸は「アニマルウェルフェアの考え方に即した家畜の管理指針」に即した飼養管理を行う。</p>	<p>いぶり農業共済組合は、自衛防疫対策の連携指導を行う。</p> <p>とうや湖養豚振興会は、技術向上講習会を開催する。</p>
3	<p>(自給飼料の拡大)</p> <p><u>酪農</u></p> <p>草地整備や草地更新を市町等の経費助成を受けながら計画的に実施し、自給飼料に立脚した安定的な経営を推進する。</p> <p>都道府県計画等での位置づけ 自給飼料の有効活用と生産コストの低減</p>	<p>酪農家6戸(山口一敏、(株)河野牧場、(有)KBF、渡部正昭、(有)ミルクオアシス豊浦、奥澤隆)は、離農跡地等を取り込みながら、草地整備をすることで圃場生産性を高める。</p> <p>酪農家15戸(山口一敏、(株)河野牧場、(有)KBF、米田正次、山口幸貴、川村栄、(有)ミルクオアシス豊浦、山崎繁信、奥澤隆、杉上一弘、田中恭一、レークヒル牧場、松浦勝美、藤田敏邦、梅津和弘)は、定期的な土壌分析、堆肥分析を行い、圃場に合わせた施肥設計による自力草地更新や市町助成を受けた草地更新を実施する。</p>	<p>豊浦町、伊達市は、草地自力更新への助成、草地整備の負担軽減、農地集積の調整をする。</p> <p>洞爺湖町は、草地整備の負担軽減、農地集積等の調整をする。</p> <p>農業改良普及センターは、草地整備や更新の種子選定、施肥設計による施肥を指導する。</p>

	<p><u>肉用牛</u></p> <p>草地整備や草地更新を市町等の経費助成を受けながら計画的に実施し、自給飼料に立脚した安定的な経営を推進する。</p> <p>都道府県計画等での位置づけ 自給飼料の有効活用と生産コストの低減</p>	<p>肉牛農家3戸（(有)カドワキ牧場、松原功、(有)近江牧場）及び乳肉複合農家（山田達彦）は、離農跡地等を取り込みながら、草地整備をすることで圃場生産性を高める。</p> <p>肉牛農家9戸（山口浩一、野々村哲男、北翔産業、平尾博、宮田雪雄、込山文昭、(有)ミナミアグリシステム、高井一英、安孫子渉）及び乳肉複合農家（山田達彦）は、定期的な土壌分析、堆肥分析を行い、圃場に合わせた施肥設計による自力草地更新を実施する。</p>	<p>豊浦町、伊達市は、草地自力更新への助成、草地整備の負担軽減、農地集積の調整をする。</p> <p>洞爺湖町は、草地整備の負担軽減、農地集積等の調整をする。</p> <p>農業改良普及センターは、草地整備や更新の種子選定、施肥設計による施肥を指導する。</p>
	<p>(自給飼料の拡大)</p> <p>広大な牧草地を有する公共牧場の積極的な利用を推進する。【再掲】</p> <p>都道府県計画等での位置づけ 自給飼料の有効活用と生産コストの低減</p>	<p>肉牛農家3戸（北翔産業、高井一英、安孫子渉）は、公共牧場への繁殖牛の放牧預託を増頭する。</p>	<p>豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区は、公共牧場の入牧料を助成し、肉牛農家の積極的な利用を推進する。</p>
	<p>放牧の推進</p>		

--	--	--	--

※

「目的達成のための取組（概要）」には、目的の番号毎に対応する取組の内容を記載し、記載に当たっては、「畜産クラスターによる推進が期待される取組類型」に記載された「取組」を参考として、取組の概要を記載する。

※ 「目的達成のための取組（概要）」には、酪肉近都道府県計画、市町村計画、H27年の酪肉近策定に係る緊急3課題、その他地域の畜産振興のために都道府県、市町村が定めた計画（以下「都道府県計画等」という。）における当該取組の位置づけを記載。

※ 「取組における中心的な経営体とその他の構成員の連携・役割分担」には、「畜産クラスターによる推進が期待される取組類型」に記載された「連携の内容（例）」を参考として、取組の主体（主語）を明らかにした上で、その取組において、中心的な経営体や関連するその他の構成員が行う取組の概要を記載する。

3 行動計画

番号	行動計画の詳細		
	取組毎の行動計画	中心的な経営体の行動計画	その他の構成員の行動計画
1	(労働負担の軽減)	《取組の主体》	《取組の主体》

<p><u>酪農</u></p> <p>モデル的な経営体系の確立のため、搾乳ロボット等の省力化機械の導入と牛舎の新設や補改修を行い、検討会における効果検証をしながら地域への普及促進を図る。また、飼料生産や堆肥調製等に係る省力化機械を導入することで、労働負担の軽減を図り、飼養規模拡大や担い手確保への障害を取り払うとともに、良質な粗飼料や堆肥の生産技術を普及推進する。</p> <p>地域内で建設されるバイオマスプラントへ堆肥を提供し、堆肥調整に関わる労働負担の軽減を図る。</p>	<p>酪農家9戸 (山口一敏、(有)KBF、米田正次、渡部正昭、塩野谷幸一、(株)河野牧場、山口幸貴、川村栄、(有)ミルクオアシス豊浦、田中恭一)</p> <p>《行動計画》</p> <p>1. 当地域におけるモデル的な牛舎整備として、酪農家5戸は搾乳ロボット、自動給餌機等を導入し、労働負担の軽減を図るとともに、牛舎の新設・改修により飼養頭数を拡大する。また、地域におけるモデル的な経営体系の確立、普及のために町、JAとうや湖、農業改良普及センターへのデータ提供、「とうや湖地域省力化経営検討会(仮)」に参加する等の協力をする。</p> <p>(1). (有)KBFは、平成29年10月までに省力化機械として搾乳ロボットを導入、自動給餌機等の導入を加え牛舎新設することにより、経産牛を95頭から125頭へ拡大し、生乳生産量を拡大を図るとともに、必要になる粗飼料確保のために草地整備を実施する。</p> <p>(2). 米田正次は、平成32年10月までに搾乳ロボットを導入した牛舎新設することにより、経産牛頭数を41頭から51頭に拡大をすることで、生乳生産量を増加する。自力による草地更新などを積極的に進め、粗飼料の確保を進める。</p> <p>(3). 山口一敏は、平成27年12月末に自動給餌機を導入し、搾乳牛の増頭分も含めて機械設備整備を実施した。飼養規模拡大や草地整備事業による自給飼料等(不耕作地の利用・デントコーン)の生産性向上を図る。</p> <p>(4). 酪農家2戸(渡部正昭、レークヒル牧場)は、自動給餌機を導入することで飼料給与作業に係る労働負担を軽減するとともに、飼養規模拡大や草地整備事業による自給飼料等(不耕作地の利用・デントコーン)の生産性向上を図る。</p>	<p>豊浦町、洞爺湖町、伊達市大滝区</p> <p>《行動計画》</p> <p>行政共催による実施農家においてモデルケースの現地調査を実施し、地域内への普及に努める。</p> <p>豊浦町はバイオマスプラントを建設し地域畜産農家より糞尿の提供を受け発電事業や耕種農家への液肥の散布等地域全体として耕畜連携を確立する。</p> <p>《取組の主体》</p> <p>JAとうや湖、農業改良普及センター</p> <p>《行動計画》</p> <p>モデル的に省力化機械を導入した農家から飼養管理や経営状況等のデータ(クミカンデータ、乳検データ等)を活用し、年2回「とうや湖地域省力化経営検討会(仮)」を開催する。</p> <p>地域農家を含めた検討によ</p>
--	---	--

		<p>2. 飼養規模拡大や担い手確保の最大の障害となっている過重労働を解消するため、高性能大型作業機械を導入するとともに、地域全体で良質な粗飼料や堆肥の生産技術を向上させ、自給飼料の確保を推進する。</p> <p>(1). 酪農家2戸((株)KBF、田中恭一)は、飼料収穫調製用機械を導入することで飼料生産作業に係る労働負担を軽減するとともに、効率的で良質な粗飼料生産技術を地域に普及させるため、飼料生産技術講習会に参加する。また、飼養規模拡大や草地整備事業による自給飼料等(不耕作地の利用・デントコーン)の生産性向上を図る。</p> <p>(2). 酪農家3戸(山口幸貴、川村栄、ミルクオアシス豊浦)は、堆肥調製機械を導入することで堆肥生産に係る労働負担を軽減するとともに、良質な堆肥を生産し、自らの飼料基盤に還元することで良質な飼料生産を図る。また、効率的で良質な堆肥生産技術を地域に普及させるため、堆肥生産技術講習会に参加する。さらに、飼養規模拡大や草地整備事業による自給飼料等(不耕作地の利用・デントコーン)の生産性向上を図る。</p> <p>奥澤隆は堆肥を豊浦町が建設するバイオマスプラントへ提供する。</p>	<p>り経営体系を確立し、その普及を進める。</p> <p>年1回、飼料や堆肥生産の講習会を開催し、地域全体の各種生産技術の向上を推進する。</p> <p>《取組の主体》 酪農家11戸</p> <p>《行動計画》 省力化経営検討会(仮)に参加し、自らの経営との比較しながら地域における経営体系の確立に協力する。</p> <p>飼料や堆肥生産の講習会に参加し、各種生産技術の向上に努める。</p> <p>《取組の主体》 機械メーカー</p> <p>《行動計画》 搾乳ロボットや自動給餌機等の省力化機械、高性能大型機械の導入における機種選定や使用時における指導、助言を行う。</p>
--	--	--	---

1	<p>(労働負担の軽減)</p> <p>コントラクター組織を設立し、各種飼料生産用機械を導入しながら受託農家及び面積を拡大することで、酪農家・肉牛農家の労働負担を軽減する。また、コントラクター組織講習会を開催することで、地域内の他地区における新たな組織設立を推進する。</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>CFI 株式会社</p> <p>《行動計画》</p> <p>1. 豊浦町畜産農家（酪農家5戸・肉牛農家2戸）は、平成28年6月までに（有）カドワキ牧場を代表とする「CFI 株式会社」を法人として設立する。</p> <p>2. コントラクター組織は、平成28年9月までにトラクター、飼料収穫調製用機械、草地管理用機械、堆肥散布用機械を導入する。</p> <p>3. コントラクター組織は、飼料生産における各種作業（耕起・肥料散布・堆肥散布・牧草刈取り・集草・デントコーン収穫）を酪農家、肉牛農家から受託する。</p> <p>4. 平成32年までに受託農家を8戸（酪農家6戸・肉牛農家2戸）まで増加させ、受託面積は1番草419ha、2番草392ha、デントコーン112haへ拡大する。</p> <p>5. 年1回、コントラクター組織講習会に講師を派遣し、地域内の他地区におけるコントラクター組織の立ち上げに協力する。</p> <table border="1" data-bbox="660 1018 1462 1238"> <tr> <td colspan="4">コントラクター組織構成員</td> </tr> <tr> <td>組織代表</td> <td colspan="3">(有) カドワキ牧場</td> </tr> <tr> <td>構成員</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(酪農家)</td> <td>(有)ミルクオアシス</td> <td>渡部 正昭</td> <td>山口 幸貴</td> </tr> <tr> <td></td> <td>奥澤 隆</td> <td>川村 栄</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(肉用農家)</td> <td>(有)カドワキ牧場</td> <td>山口 浩一</td> <td></td> </tr> </table>	コントラクター組織構成員				組織代表	(有) カドワキ牧場			構成員				(酪農家)	(有)ミルクオアシス	渡部 正昭	山口 幸貴		奥澤 隆	川村 栄		(肉用農家)	(有)カドワキ牧場	山口 浩一		<p>《取組の主体》</p> <p>豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区</p> <p>《行動計画》</p> <p>行政共催によるコントラクター組織講習会を年1回、開催して利用拡大と新規組織の設立を推進する。</p> <p>《取組の主体》</p> <p>J Aとうや湖、農業改良普及センター</p> <p>《行動計画》</p> <p>コントラクター組織としての法人化に関する手続き等への指導を行う。</p> <p>コントラクター組織運営検討会議、年2回実施（飼料収穫機械整備及び牧草収穫適期時、品質等の収穫）推進の為、検討会議の実施</p> <p>各種受託作業における事故防止のため安全作業を啓蒙する。</p>
コントラクター組織構成員																											
組織代表	(有) カドワキ牧場																										
構成員																											
(酪農家)	(有)ミルクオアシス	渡部 正昭	山口 幸貴																								
	奥澤 隆	川村 栄																									
(肉用農家)	(有)カドワキ牧場	山口 浩一																									

自給粗飼料関連(コントラクター)			単位:ha				
	1番草	2番草	コーン	参加戸数		増頭頭数	
				酪農	肉牛	酪農	肉牛
現状 H27	290.5	263.5	112.0	5	1	256	587
設立 H28	325.5	298.5	112.0	6	2		
目標 H32	419.0	392.0	112.0	6	2	300	602
増減(目標-現状)	128.5	128.5	0.0	1	1	44	15

《取組の主体》
農業改良普及センター
《行動計画》
コントラクター組織が受託する各種作業に係る技術的な指導をする。

《取組の主体》
酪農家6戸、肉牛農家2戸
《行動計画》
コントラクター組織へ飼料生産における各種作業の積極的な作業委託をする。

《取組の主体》
酪農家5戸、肉牛農家2戸
《行動計画》
コントラクター組織講習会に参加し、地域内における新規コントラクター組織の設立を検討する。

1 (労働負担の軽減)
搾乳作業における酪農家の負担を軽減するため、酪農へ

《取組の主体》
酪農家21戸
《行動計画》

《取組の主体》
JAとうや湖、豊浦町、洞爺湖町、伊達市大滝区

	<p>ルパーの積極的な利用を推進する。</p>	<p>1. 酪農家は、積極的な酪農ヘルパーの利用を進めることで、1戸あたり年間平均利用日数を23.8日まで拡大し、飼養管理作業における労働負担を軽減する。</p> <p>【利用日数】</p> <table border="1" data-bbox="680 363 1442 496"> <thead> <tr> <th></th> <th>現在</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1戸あたり平均利用日数</td> <td>18.9日/年</td> <td>23.8日/年</td> </tr> <tr> <td>年間利用延べ日数</td> <td>397日/年</td> <td>500日/年</td> </tr> </tbody> </table>		現在	目標	1戸あたり平均利用日数	18.9日/年	23.8日/年	年間利用延べ日数	397日/年	500日/年	<p>《行動計画》</p> <p>酪農家の定期的な休日を確保するために酪農ヘルパー組合の運営費に助成し、利用料金を軽減する。</p> <p>《取組の主体》</p> <p>とうや湖酪農ヘルパー利用組合</p> <p>《行動計画》</p> <p>ヘルパー人員を確保し、体制整備を行い、酪農家からの派遣依頼に対応する。</p>
	現在	目標										
1戸あたり平均利用日数	18.9日/年	23.8日/年										
年間利用延べ日数	397日/年	500日/年										
1	<p>(労働負担の軽減)</p> <p><u>肉用牛</u></p> <p>酪農家と同様に飼料生産や堆肥調製等に係る省力化機械を導入することで、労働負担の軽減を図り、飼養規模拡大や担い手確保への障害を取り払うとともに、良質な粗飼料や堆肥の生産技術を普及させ、耕種農家との連携により資源循環型農業を推進する。</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>肉牛農家3戸 (有)近江牧場、(有)北翔産業、平尾博)</p> <p>《行動計画》</p> <p>1. (有)近江牧場は、平成32年迄に飼料収穫調製用機械を導入することで飼料生産作業に係る労働負担を軽減するとともに、効率的で良質な粗飼料生産技術を地域に普及させるため、飼料生産技術講習会に参加する。また、草地整備事業による自給飼料等(不耕作地の利用)の生産性を向上させながら、出荷頭数を拡大する。</p> <p>2. (有)北翔産業と平尾博は、平成30年までに堆肥調製機械を導入することで堆肥生産に係る労働負担を軽減するとともに、良質な堆肥を生産し、自ら</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町、伊達市大滝区</p> <p>《行動計画》</p> <p>地域内の畜産農家と耕種農家間での堆肥の還元等資源循環型農業を推進していく。</p> <p>豊浦町はバイオマスプラントを建設し地域畜産農家より糞尿の提供を受け発電事業や耕</p>									

<p>地域内で建設されるバイオマスプラントへ堆肥を提供し、堆肥調整に関わる労働負担の軽減を図る。</p>	<p>の飼料基盤に還元することで良質な飼料生産を図り、耕種農家へ還元することで資源循環型農業を推進していく。また、効率的で良質な堆肥生産技術を地域に普及させるため、堆肥生産技術講習会に参加し、地域全体で良質な粗飼料や堆肥の生産技術を向上させ、自給飼料の確保を推進する。</p>	<p>種農家への液肥の散布等地域全体として耕畜連携を確立する。</p> <p>《取組の主体》</p> <p>J Aとうや湖、農業改良普及センター、ホクレン</p> <p>《行動計画》</p> <p>地域内の畜産農家と耕種農家間での堆肥の還元等資源循環型農業を推進しするとともに、クリーン農業を目指す。</p> <p>年1回、飼料や堆肥生産の講習会を開催し、地域全体の各種生産技術の向上を推進する。</p> <p>《取組の主体》</p> <p>肉牛農家10戸、 乳肉複合農家1戸</p> <p>《行動計画》</p> <p>飼料や堆肥生産の講習会に参加し、各種生産技術の向上に努める。</p>
--	--	--

			<p>《取組の主体》 機械メーカー</p> <p>《行動計画》 高性能大型作業機械の導入における機種選定や使用時における指導、助言を行う。</p>
1	<p>(労働負担の軽減)</p> <p>コントラクター組織を設立し、各種飼料生産用機械を導入しながら受託農家及び面積を拡大することで、酪農家・肉牛農家の労働負担を軽減する。また、コントラクター組織講習会を開催することで、地域内の他地区における新たな組織設立を推進する。</p>	<p>《取組の主体》 CFI 株式会社</p> <p>《行動計画》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊浦町畜産農家（酪農家5戸・肉牛農家2戸）は、平成28年6月までに（有）カドワキ牧場を代表とする「CFI 株式会社」を法人として設立する。 2. コントラクター組織は、平成28年9月までにトラクター、飼料収穫調製用機械、草地管理用機械、堆肥散布用機械を導入する。 3. コントラクター組織は、飼料生産における各種作業（耕起・肥料散布・堆肥散布・牧草刈取り・集草・デントコーン収穫）を酪農家、肉牛農家から受託する。 4. 平成32年までに受託農家を8戸（酪農家6戸・肉牛農家2戸）まで増加させ、受託面積は1番草419ha、2番草392ha、デントコーン112haへ拡大する。 5. 年1回、コントラクター組織講習会に講師を派遣し、地域内の他地区におけるコントラクター組織の立ち上げに協力する。 	<p>《取組の主体》 豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区</p> <p>《行動計画》 行政共催によるコントラクター組織講習会を年1回、開催して利用拡大と新規組織の設立を推進する。</p> <p>《取組の主体》 JAとうや湖、農業改良普及センター</p> <p>《行動計画》 コントラクター組織としての法人化に関する手続き等への指導を行う。 コントラクター組織運営検</p>

コントラクター組織構成員			
組織代表	(有) カドワキ牧場		
構成員			
(酪農家)	(有)ミルクオアシス	渡部 正昭	山口 幸貴
	奥澤 隆	川村 栄	
(肉用農家)	(有)カドワキ牧場	山口 浩一	

自給粗飼料関連(コントラクター)			単位:ha				
	1番草	2番草	コーン	参加戸数		増頭頭数	
				酪農	肉牛	酪農	肉牛
現状 H27	290.5	263.5	112.0	5	1	256	587
設立 H28	325.5	298.5	112.0	6	2		
目標 H32	419.0	392.0	112.0	6	2	300	602
増減(目標-現状)	128.5	128.5	0.0	1	1	44	15

討会議、年2回実施（飼料収穫機械整備及び牧草収穫適期時、品質等の収穫）推進の為、検討会議の実施。

各種受託作業における事故防止のため安全作業を啓蒙する。

《取組の主体》

農業改良普及センター

《行動計画》

コントラクター組織が受託する各種作業に係る技術的な指導をする。

《取組の主体》

酪農家6戸、肉牛農家2戸

《行動計画》

コントラクター組織へ飼料生産における各種作業の積極的な作業委託をする。

《取組の主体》

酪農家5戸、肉牛農家2戸

《行動計画》

			<p>コントラクター組織講習会に参加し、地域内における新規コントラクター組織の設立を検討する。</p>
1	<p>(労働負担の軽減)</p> <p>飼養管理、繁殖管理作業における肉牛農家の負担を軽減するため、公共牧場の積極的な利用を推進する。</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>肉牛農家3戸 (北翔産業、高井一英、安孫子渉)</p> <p>《行動計画》</p> <p>肉牛農家は、夏期の労働時間短縮の為に公共牧場への放牧利用を拡大し、放牧により足腰の強い和牛繁殖牛を育てる。</p> <p>H27 入牧頭数 (北翔産業 73 頭、高井一英 12 頭、安孫子渉 3 頭)</p> <p>公共牧場入牧頭数 洞爺湖町 (現在) 6 戸 92 頭 → (目標) 7 戸 100 頭</p> <p>公共牧場入牧頭数 壮瞥町 (現在) 7 戸 38 頭 → (目標) 8 戸 50 頭</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区</p> <p>《行動計画》</p> <p>肉牛農家の飼養管理や繁殖管理における作業負担を軽減するため、公共牧場の入牧料に助成する。</p>

2	<p>(飼養規模の拡大・飼養管理の改善)</p> <p><u>酪農</u></p> <p>酪農と肉用牛生産の連携協調である「育成牛預託システム」を活用し、酪農家が育成牛を預託し、肉牛農家が受託した育成牛を初任牛として返還することで酪農家の飼養管理における作業負担を軽減しながら、後継牛を確保する。また、本システムにおける低コスト・小規模版の実証試験を行い、地域内の他地区へ普及を促進する。</p> <p>豊浦町が建設するバイオマス</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>酪農家16戸</p> <p>(山口一敏、(有)KBF、(株)河野牧場、米田正次、奥澤隆、川村栄、(有)ミルクオアシス豊浦、山口幸貴、渡部正昭、山崎繁信、田中恭一、杉上一弘、レークヒル牧場、松浦勝美、藤田敏邦、梅津和弘)</p> <p>《行動計画》</p> <ol style="list-style-type: none"> 酪農家3戸(川村栄・(有)ミルクオアシス豊浦・山口幸貴)は、肉牛農家((有)カドワキ牧場)と地域構想であった「育成牛預託システム」を平成27年3月から実施した。(預託頭数34頭) 酪農家は、生後約7～14月齢の哺育・育成牛を肉用農家へ預託する。 酪農家は、受精卵移植か性判別精液のうち自らが希望する方法によって肉牛農家で妊娠した初妊牛を分娩2～3か月前までに戻し受ける。 酪農家は、初妊牛から出生した黒毛和牛を地域内の肉牛農家に販売するとともに、乳牛を自らの経営における後継牛とする。 酪農家は、平成32年までに預託農家を4戸に増加させ、年間預託頭数を55頭まで拡大する。 	<p>《取組の主体》</p> <p>豊浦町、洞爺湖町、伊達市大滝区</p> <p>《行動計画》</p> <p>育成牛預託システムの利用拡大を図るため、年4回地域内の酪農家及び肉用農家に現地調査を実施し普及に努める。</p> <p>地域内の酪農家及び肉用農家にシステム運用状況に係る情報を提供する。</p> <p>牛舎の増改築、修繕等に対する経費を助成する。</p> <p>豊浦町はバイオマスプラントを建設し地域畜産農家より糞</p>

<p>プラントに糞尿を提供し発電事業に協力する。</p>	<p>6. 酪農家は、この育成牛預託システムの低コスト・小規模版として地域内の他地区（伊達市大滝区・壮瞥町）で実施する実証試験の検証に参加し、システムの複数バージョン化に協力する。（肉牛農家の空き牛舎スペースを利用した補改修を伴わない少頭数預託システムの実証、確立）</p> <p>【少頭数預託システム】</p> <p>酪農家 梅津和弘（大滝地区） 預託頭数 3頭 受入肉牛農家 谷田川和夫（大滝地区） 採卵肉牛農家 込山文昭（壮瞥地区） 採卵頭数 2頭</p> <p>【経産牛の増頭】</p> <p>川村栄 H27.3 経産牛 43頭→H32 目標経産牛 53頭へ増頭 山口幸貴 H27.3 経産牛 33頭→H32 目標経産牛 45頭へ増頭 ミルクオアシス豊浦 H27.3 経産牛 59頭→H32 目標経産牛 69頭へ増頭 山崎繁信 H27.3 経産牛 40頭→H32 目標経産牛 40頭現状維持</p> <p>7. 酪農家は、「育成牛預託システム」の他、自農場の乳牛に和牛授精卵の移植並びに性判別精液を利用することで、優良後継牛の確保を図り、生乳の増産に繋げる。</p> <p>【受精卵活用農家（7戸・年間38卵）】</p> <p>山口一敏、山口幸貴、川村栄、（有）ミルクオアシス豊浦、杉上一弘、松浦勝美、梅津和弘</p> <p>【性判別精液活用農家（9戸・年間150本）】</p> <p>（株）河野牧場、山口一敏、山口幸貴、川村栄、（有）ミルクオアシス豊浦、山田達彦、松浦勝美、梅津和弘、藤田敏邦</p>	<p>尿の提供を受け発電事業や耕種農家への液肥の散布等地域全体として耕畜連携を確立する。</p> <p>《取組の主体》</p> <p>J Aとうや湖、サツラク農協、農業改良普及センター、とうや湖酪農振興会</p> <p>《行動計画》</p> <p>育成牛預託システムの活用による規模拡大、飼養管理改善に向けた（乳量増産、乳質、体細胞・旬報等）による検証等の為、酪農振興会を含め検討会議の実施によって推進する。</p> <p>育成牛を預託する酪農家の利用推進を図るとともに、随時、計画的に預託システムを運用するための利用調整を行う。</p> <p>和牛受精卵の確保及び採卵調整をするとともに、酪農家</p>
------------------------------	--	--

		<p>8. 奥澤隆は、畜産担い手育成総合整備事業により草地整備を行い大型機械の可能な草地整備を含め、育成舎（51 頭規模）を平成 30 年までに新設し乾乳スペースの改善により経産牛頭数を 69 頭から 74 頭に拡大をすることで、生乳生産量を増加する。</p> <p>9. (株)河野牧場は、地域内の水田活用による草地化の集積を利用して自給飼料の確保により増頭する。牛舎内の乾乳牛・育成牛のスペースを搾乳牛のスペースに置き換えることで平成 28 年に新たに乾乳育成舎を自己対応により実施し、経産牛を 66 頭から 76 頭に拡大し生乳生産量拡大を図る。</p> <p>10. 各酪農家は、個別に検証した乳検データの結果をもとにした乳検組合や J A とうや湖による指導を受けながら、乳質の改善や乳房炎等の疾病発生防止に努める。</p> <p>11. 各酪農家は、N O S A I 等からの指導を受けながら、飼養衛生管理基準の厳格な遵守の再徹底を図り、家畜伝染病の発生防止対策の強化に努める。</p> <p>12. 奥澤隆は堆肥を豊浦町が建設するバイオマスプラントへ提供する。</p>	<p>に性判別精液の選択を指導する。</p> <p>月 1 回、乳質向上の為に搾乳立会と乳汁検査をして乳質・乳房等疾病改善の指導をする。</p> <p>《取組の主体》 農業改良普及センター</p> <p>《行動計画》 月 1 回、肉牛農家への乳牛育成牛の飼養管理の指導、搾乳牛を増頭した酪農家への技術指導を行う。年 1 回、乳質向上の為に搾乳立会と乳汁検査をして乳質・乳房等疾病改善の指導をする。</p> <p>繁殖成績や飼養管理技術の向上のための講習会を開催する。</p> <p>《取組の主体》 いぶり農業共済組合</p> <p>《行動計画》 月 1 回、乳質向上の為に搾</p>
--	--	--	---

			<p>乳立会と乳汁検査をして乳質 ・乳房等疾病改善の指導をする。年1回、乳質向上の為に搾乳立会と乳汁検査をして乳質・乳房等疾病改善の指導をする。</p> <p>繁殖成績や飼養管理技術の向上のための講習会を開催する。</p> <p>《取組の主体》 とうや湖乳牛検定組合 ホクレン</p> <p>《行動計画》 月1回、検定立会時に個別の乳検データの活用と飼料給与計算を行う。</p> <p>《取組の主体》 とうや湖酪農振興会</p> <p>《行動計画》 年1回、乳質向上の為に搾乳立会と乳汁検査をして乳質・乳房等疾病改善の指導をす</p>
--	--	--	---

			る。 繁殖成績や飼養管理技術の向上のための講習会を開催する。
2	<p>(飼養規模の拡大・飼養管理の改善)</p> <p><u>肉用牛</u></p> <p>酪農と肉用牛生産の連携協調である「育成牛預託システム」を活用し、酪農家が育成牛を預託し、肉牛農家が受託した育成牛を初任牛として返還することで酪農家の飼養管理における作業負担を軽減しながら、後継牛を確保する。また、本システムにおける低コスト・小規模版の実証試験を行い、地域内の他地区へ普及を促進する。</p> <p>豊浦町が建設するバイオマスプラントに糞尿を提供し発電事業に協力する。</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>肉牛農家13戸、乳肉複合農家1戸</p> <p>((有)カドワキ牧場、山田達彦、野々村哲男、山口浩一、松原功、北翔産業、平尾博、(有)近江牧場、宮田雪雄、込山文昭、(有)ミナミアグリシステム、高井一英、我孫子渉、谷田川和夫)</p> <p>《行動計画》</p> <p>1. (有)カドワキ牧場は、豊浦町による経費助成を受け、育成牛を受託するための施設整備を行い、酪農家3戸(川村栄・(有)ミルクオアシス豊浦・山口幸貴)と地域構想であった「育成牛預託システム」を平成27年3月から実施した。(預託頭数34頭)</p> <p>2. (有)カドワキ牧場は、生後約7~14月齢の哺育・育成牛を酪農家から受託する。</p> <p>3. 肉牛農家((有)カドワキ牧場、平尾博、北翔産業)は、定期的に(株)とから繁殖技術研究会による採卵を実施し、地域内の和牛受精卵を確保する。</p> <p>4. (有)カドワキ牧場は、受精卵移植か性判別精液のうち酪農家が希望する方法によって妊娠した初妊牛を酪農家に分娩2~3か月前までに戻す。</p> <p>4. 肉牛農家は、初妊牛から出生した黒毛和牛を酪農家から購入する。</p> <p>5. (有)カドワキ牧場は、平成32年までに預託農家を4戸に増加させ、年間預託頭数を55頭まで拡大する。</p> <p>6. (有)カドワキ牧場は、この育成牛預託システムの低コスト・小規模版と</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>豊浦町、洞爺湖町、伊達市大滝区</p> <p>《行動計画》</p> <p>育成牛預託システムの利用拡大を図るため、年2回地域内の酪農家及び肉用農家に現地調査を実施し普及に努める。地域内の酪農家及び肉用農家にシステム運用状況に係る情報を提供する。</p> <p>牛舎の増改築、修繕等に対する経費を助成する。</p> <p>豊浦町はバイオマスプラントを建設し地域畜産農家より糞尿の提供を受け発電事業や耕種農家への液肥の散布等地域全体として耕畜連携を確立する。</p> <p>《取組の主体》</p> <p>J Aとうや湖、サツラク農</p>

		<p>して地域内の他地区（伊達市大滝区・壮瞥町）で実施する実証試験の検証に参加し、システムの複数バージョン化に協力する。（肉牛農家の空き牛舎スペースを利用した補改修を伴わない少頭数預託システムの実証、確立）</p> <p>【少頭数預託システム】</p> <p>酪農家 梅津和弘（大滝地区） 預託頭数 3頭 受入肉牛農家 谷田川和夫（大滝地区） 採卵肉牛農家 込山文昭（壮瞥地区） 採卵頭数 2頭</p> <p>7. 肉牛農家は、「育成牛預託システム」の他、自農場の繁殖牛に和牛授精卵を移植することで、地域全体で和牛頭数の拡大を推進する。。</p> <p>【受精卵活用農家（9戸・年間162卵）】</p> <p>（有）カドワキ牧場、山田達彦、野々村哲男、（有）北翔産業、平尾博、宮田雪雄、込山文昭、高井一英、谷田川和夫</p> <p>【繁殖牛の増頭】</p> <p>カドワキ牧場 H27.3 繁殖牛 587頭→H32 目標繁殖牛 597頭へ増頭 山口浩一 H27.3 繁殖牛 14頭→H32 目標繁殖牛 19頭へ増頭 松原 功 H27.3 繁殖牛 30頭→H32 目標繁殖牛 32頭へ増頭 北翔産業 H27.3 繁殖牛 121頭→H32 目標繁殖牛 131頭へ増頭 平尾 博 H27.3 繁殖牛 67頭→H32 目標繁殖牛 72頭へ増頭 宮田雪雄 H27.3 繁殖牛 36頭→H32 目標繁殖牛 39頭へ増頭 込山文昭 H27.3 繁殖牛 13頭→H32 目標繁殖牛 16頭へ増頭</p>	<p>協・とうや湖和牛生産組合</p> <p>《行動計画》</p> <p>育成牛を預託する酪農家の利用推進を図るとともに、随時、計画的に預託システムを運用するための利用調整を行う。</p> <p>又、年1回は、「育成牛預託システム」の活用及び和牛増頭に向けた検証会議の実施並びに推進。（とうや湖和牛生産組合・胆振基準牛増頭）</p> <p>和牛受精卵の確保及び採卵調整をするとともに、酪農家に性判別精液の選択を指導する。</p> <p>繁殖牛増頭を図る為に農協独自の貸付制度を実施する。</p> <p>年4回、枝肉販売立会を実施しながら「とうや湖和牛」輸出検討会（仮）を開催する。</p>
--	--	--	--

		<p>メミアグリ H27.3 繁殖牛 21 頭→H32 目標繁殖牛 23 頭へ増頭 高井一英 H27.3 繁殖牛 22 頭→H32 目標繁殖牛 25 頭へ増頭 安孫子渉 H27.3 繁殖牛 16 頭→H32 目標繁殖牛 18 頭へ増頭 谷田川和夫 H27.3 繁殖牛 7 頭→H32 目標繁殖牛 9 頭へ増頭</p> <p>8. 山田達彦は、乳肉複合経営のため、平成 29 年 10 月までに和牛繁殖牛の増頭を図ることから繁殖舎の建設を実施する。受精卵の活用等により繁殖牛 13 頭から 38 頭に規模拡大を図る。また、新規就農者（娘婿）による経営継承を進めている。</p> <p>9. 野々村哲男は、平成 32 年までに和牛繁殖牛の増頭を図ることから自助努力により繁殖舎の建設を実施する。受精卵の活用等により繁殖牛 17 頭から 23 頭に規模拡大を図る。</p> <p>10. 各肉牛農家は、NOSA I 等からの指導を受けながら、飼養衛生管理基準の厳格な遵守の再徹底を図り、家畜伝染病の発生防止対策の強化に努める。</p> <p>11. 現在定期的にホクレン十勝枝肉市場へ肥育牛を出荷しており、帯広市に建設中の対米輸出向け食肉加工施設を利用することを目的に、和牛肉の輸出を目指し、国内外へのブランド化の定着を図る。（「とうや湖和牛」地域団体商標登録申請中）</p>	<p>《取組の主体》 農業改良普及センター</p> <p>《行動計画》 月 1 回、肉牛農家への乳牛育成牛の飼養管理の指導、搾乳牛を増頭した酪農家への技術指導を行う。</p> <p>《取組の主体》 農業改良普及センター</p> <p>《行動計画》 月 1 回、肉牛農家への乳牛育成牛の飼養管理の指導、搾乳牛を増頭した酪農家への技術指導を行う。</p> <p>《取組の主体》 いぶり農業共済組合</p> <p>《行動計画》 月 1 回、肉牛農家に受託牛の受精・受胎率向上のための飼養管理技術、疾病対策等の指導を行う。</p> <p>《取組の主体》</p>
--	--	--	--

			<p>(株)とかち繁殖技術研究所</p> <p>《行動計画》</p> <p>和牛受精卵の定期的な採卵への取組支援並びに受精卵移植技術の普及支援をする。</p> <p>《取組の主体》</p> <p>とうや和牛生産改良組合</p> <p>《行動計画》</p> <p>繁殖成績や飼養管理技術の向上のための講習会を参加する。</p>
2	<p>(飼養規模の拡大・飼養管理の改善)</p> <p><u>養 豚</u></p> <p>「地域生産分業体制」を構築するため、繁殖育成センターの建設と既存豚舎の改修等を行うとともに、繁殖成績や飼養管理技術の向上を図るため、検討会や講習会を開催しながら飼養頭数を増加させる。また、体制の構築に伴い、必要な雇用を確保するとともに、飼料やふん尿は耕畜連携を推進し、一般消</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>養豚農家3戸</p> <p>(有)ゲズント農場、(有)フロイデ農場、入船敏光</p> <p>《行動計画》</p> <p>1. 養豚農家(有)ゲズント農場、(有)フロイデ農場、入船敏光)は、繁殖育成センターを整備するとともに、既存施設を改修することで繁殖部門と肥育部門に専門化した「地域生産分業体制」を構築する。</p> <p>繁殖育成センター管理及び肥育・・・(有)ゲズント農場</p> <p>肥育専門・・・・・・・・・・(有)フロイデ農場、入船敏光</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>豊浦町</p> <p>《行動計画》</p> <p>自衛防疫対策に要する経費に助成をする。</p> <p>「地域生産分業体制」の導入に伴い必要となる従業員の確保に協力する。</p> <p>各地でのイベント等でのブランド豚肉のPRの実施による推進する。(特に毎年6月に豊浦町で開催している「いちご豚肉まつり」では、3万</p>

費者への理解促進（食育）を図る。
また、豊浦町が建設するバイオマスプラントに糞尿を提供し発電事業に協力する。

繁殖センター管理	肥育施設新設	既存施設改修工事
ゲズント農場		
	ゲズント農場	ゲズント農場
	フロイデ農場	フロイデ農場

2. (有)ゲズント農場は、平成 29 年 10 月までに繁殖育成センター部門の施設を完成させ、地域内の繁殖頭数 1,028 頭から 2,500 頭に増頭し、将来的に地域の肥育農家に子豚を供給する。
3. (有)ゲズント農場は、繁殖育成センター建設と同時（平成 29 年 10 月まで）に肥育豚舎を新設、既存施設（繁殖舎等）の改修により肥育豚を 11,630 頭から 52,114 頭に増頭する。
4. (有)フロイデ農場は、将来的に、繁殖育成センターから子豚の供給を受けることにより肥育豚を増頭する。
5. (有)ゲズント農場は、オートソーティングシステム等を取り入れ、出荷体重測定の作業軽減と多群肥育によって、地域内の生産頭数の増頭並びに質・量ともに一定の水準を満たした豚肉を安定的に供給する。
6. 入船敏光は、将来的に繁殖育成センターより子豚の供給を受けることを検討し繁殖豚舎を自費で肥育豚舎に改修しており、肥育豚のみを 333 頭から 450 頭に増頭する。

【各農場における増頭計画】

ゲズント農場	H27 出荷頭数	11,630 頭	→	H32 出荷頭数	52,144 頭
フロイデ農場	H27 出荷頭数	12,817 頭	→	H32 出荷頭数	21,406 頭
入船 敏光	H27 出荷頭数	333 頭	→	H32 出荷頭数	450 頭
合計	H27 出荷頭数	24,780 頭	→	H32 出荷頭数	65,000 頭

人が来場し、焼き肉コーナー（1,000 組×4 名）や豚丸焼き 500 食、豚汁 500 食完売するなど「とようらポーク」に対する道内外の消費者への理解促進に大きく貢献している。）バイオマスプラントを建設し地域畜産農家より糞尿の提供を受け発電事業や耕種農家への液肥の散布等地域全体として耕畜連携を確立する。

《取組の主体》

J A とうや湖

《行動計画》

自衛防疫対策に要する経費に助成をする。

「地域生産分業体制」の導入に伴い必要となる従業員の確保に協力する。

ホクレンと共催による月次検討会の開催し、経営技術など情報を提供、分析する。

ホクレンと合同で月 1 回、品質安定化のためにエコフィードの調整技術の協力、利用

		<p>7. ゲズント農場、フロイデ農場及び入船敏光は、J Aとうや湖とホクレンが開催する月次検討会に参加し、経営分析等を踏まえながら、「地域生産分業体制」の構築、推進する。</p> <p>8. ゲズント農場、フロイデ農場及び入船敏光は、とうや湖養豚振興会が主催する講習会に参加し、繁殖成績や飼養管理技術を向上する。</p> <p>9. 「地域生産分業体制」の構築による大規模な繁殖育成センターと肥育施設の設置により、地域養豚の振興及びそれによる雇用創出が図られ、地域内において従業員6名の雇用が発生する。</p> <p>【雇用先】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 40px;">繁殖育成センター</td> <td style="text-align: right;">3名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">肥育施設（ゲズント農場）</td> <td style="text-align: right;">3名</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 80px;">合計</td> <td style="text-align: right;">6名</td> </tr> </table> <p>10. 養豚農家は、「地域生産分業体制」による飼養頭数の拡大にあわせて、エコフィードの利用を推進する。</p> <p>(1). ゲズント農場、フロイデ農場及び入船敏光は、水田農家より飼料米を購入して肥育豚に年間6トンを給与する</p> <p>(2). ゲズント農場及びフロイデ農場は、シロップホエーの利用に積極的に取り組み、年間1,400トンを給与する。</p> <p>(3). フロイデ農場及びゲズント農場は、道産原料を使用した飼料給与によって生産した（一部の）豚肉を通常のものよりも付加価値の高い商品として販売するモデルケースとして生産に取り組む。（道産飼料原料、 ・トウモロコシ）</p>	繁殖育成センター	3名	肥育施設（ゲズント農場）	3名	合計	6名	<p>調整を行う。</p> <p>随時、養豚農家と堆肥還元を行う耕種農家とのマッチングをする。</p> <p>各地でのイベント等でのブランド豚肉のPRの実施による推進する。（特に毎年6月に豊浦町で開催している「いちご豚肉まつり」では、3万人が来場し、焼き肉コーナー（1,000組×4名）や豚丸焼き500食、豚汁500食完売するなど「とようらポーク」に対する道内外の消費者への理解促進に大きく貢献している。）</p> <p>年2回、ホクレンとの連携で消費者との交流により消費拡大を図る。</p> <p>《取組の主体》 農業改良普及センター</p> <p>《行動計画》 養豚農家への堆肥製造時における技術指導、耕種農家への堆肥施用時における散布指</p>
繁殖育成センター	3名								
肥育施設（ゲズント農場）	3名								
合計	6名								

		<table border="1" data-bbox="663 165 1301 240"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="663 165 1301 204">道産飼料作物の試験の取組</td> </tr> <tr> <td data-bbox="663 204 976 240">ゲズント農場</td> <td data-bbox="976 204 1301 240">フロイデ農場</td> </tr> </table> <p data-bbox="663 316 1648 443">11. ゲズント農場、フロイデ農場及び入船敏光は、耕畜連携の取組として、耕種農家に対して堆肥を供給し、供給を受けた耕種農家が土づくりのために農地へ還元することで、クリーン農業を推進する。</p> <p data-bbox="663 464 1648 592">12. ゲズント農場、フロイデ農場及び入船敏光は、「いちご豚肉まつり」を始めとした各地イベントに「とようらポーク」を提供し、消費者への理解促進に協力する。</p> <p data-bbox="663 612 1648 692">13. (有)ゲズント農場は、豊浦町が建設するバイオマスプラントに糞尿を提供し発電事業に協力する。</p> <p data-bbox="663 713 1648 793">14. 養豚農家3戸は「アニマルウェルフェアの考え方に即した家畜の管理指針」に即した飼養管理を行う。</p>	道産飼料作物の試験の取組		ゲズント農場	フロイデ農場	<p data-bbox="1675 165 1805 197">導を行う。</p> <p data-bbox="1675 363 1877 395">《取組の主体》</p> <p data-bbox="1675 416 2051 496">ホクレン農業協同組合連合会</p> <p data-bbox="1675 517 1850 549">《行動計画》</p> <p data-bbox="1675 569 2051 793">月次検討会の開催し、経営技術など情報提供及び分析、道産飼料原料の供給並びに豚肉の肉質・食味評価、生産成績を検討する。</p> <p data-bbox="1675 813 2051 893">随時、高付加価値を得られる販売先を探索する。</p> <p data-bbox="1675 963 1877 995">《取組の主体》</p> <p data-bbox="1675 1016 1962 1048">いぶり農業共済組合</p> <p data-bbox="1675 1069 1850 1101">《行動計画》</p> <p data-bbox="1675 1121 2051 1249">月1回、自衛防疫対策における連携対応などの指導を行う。</p> <p data-bbox="1675 1319 1877 1351">《取組の主体》</p> <p data-bbox="1675 1372 1962 1404">とうや湖養豚振興会</p>
道産飼料作物の試験の取組							
ゲズント農場	フロイデ農場						

			≪行動計画≫ 年1回、養豚農家の繁殖成績や飼養管理技術の向上を図るための講習会を開催する。																																								
3	(自給飼料の拡大) <u>酪農</u> 草地整備や草地更新を市町等の経費助成を受けながら計画的に実施し、自給飼料に立脚した安定的な経営を推進する。	≪取組の主体≫ 酪農家16戸 (山口一敏、(有)KBF、(株)河野牧場、米田正次、奥澤隆、川村栄、(有)ミルクオアシス豊浦、山口幸貴、渡部正昭、山崎繁信、田中恭一、杉上一弘、レークヒル牧場、松浦勝美、藤田敏邦、梅津和弘) ≪行動計画≫ 1. 各酪農家は、購入飼料に頼らない自給飼料に立脚した安定的な経営を目指すため、草地畜産基盤整備事業の活用による草地の整備(大区画化等)や市町による経費助成を受けた自力草地更新等により計画的な粗飼料生産基盤の維持・拡大を推進する。	≪取組の主体≫ 豊浦町、伊達市 ≪行動計画≫ 酪農家が草地の自力更新する際に係る経費を助成する。 畜産担い手事業(草地整備)に係る受益者負担の一部を助成する。農地の集積等に係る調整をする。																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">草地整備計画面積</th> </tr> <tr> <th></th> <th>戸数</th> <th colspan="2">面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>畜産担い手事業</td> <td>10</td> <td>188.2</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>市町自力草地更新事業</td> <td>9</td> <td>55.5</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>自力草地更新</td> <td>16</td> <td>29.0</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>35</td> <td>272.7</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>更新率</td> <td></td> <td>19.3</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td colspan="4">※デントコーン更新面積含む</td> </tr> <tr> <td colspan="4">※合計戸数は延べ戸数</td> </tr> <tr> <td colspan="4">※酪農家・肉牛農家</td> </tr> </tbody> </table>	草地整備計画面積					戸数	面積		畜産担い手事業	10	188.2	ha	市町自力草地更新事業	9	55.5	ha	自力草地更新	16	29.0	ha	合計	35	272.7	ha	更新率		19.3	%	※デントコーン更新面積含む				※合計戸数は延べ戸数				※酪農家・肉牛農家				≪取組の主体≫ 洞爺湖町 ≪行動計画≫ 畜産担い手事業(草地整備)に係る受益者負担の一部を助成する。農地の集積等に係る調整をする。
草地整備計画面積																																											
	戸数	面積																																									
畜産担い手事業	10	188.2	ha																																								
市町自力草地更新事業	9	55.5	ha																																								
自力草地更新	16	29.0	ha																																								
合計	35	272.7	ha																																								
更新率		19.3	%																																								
※デントコーン更新面積含む																																											
※合計戸数は延べ戸数																																											
※酪農家・肉牛農家																																											
		2. 各酪農家は、定期的な土壌分析、堆肥分析を行い環境に合わせた施肥設計を農業改良普及センターに依頼し、その分析結果による施肥設計を	≪取組の主体≫																																								

		<p>もとにした指導を受けながら適正な施肥を実施することで、飼料生産量の拡大を進める。取組の実施により、堆肥の投入により一番草作付けを維持しつつ、収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>3. 各酪農家は、町による調整等の助力を受けながら、離農や経営規模縮小により遊休化した農地を集積し、自らの飼料基盤拡大を進める。</p> <p>(1). 山口一敏は、平成 32 年迄に草地整備事業による自給飼料等(不耕地の利用・デントコーン)の生産性向上を図る。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 畜産担い手事業 31.62ha 市町草地更新事業 10.00ha</p> <p>(2). (有) K B F は、平成 29 年 10 月までに増頭することに伴い、必要になる粗飼料確保のために草地整備を実施する。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質や栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 畜産担い手事業 45.12ha 市町草地更新事業 7.50ha</p> <p>(3). 米田正次は、平成 32 年 10 月までに増頭することに伴い、自力による草地更新などを積極的に進める。取組の実施により、一番草作付けを維</p>	<p>農業改良普及センター 《行動計画》 草地整備や更新において地域特性や圃場特性を考慮した種子選定を助言する。 土壌分析に基づいた施肥設計を行い、適切な肥料施用を指導する。</p>
--	--	--	--

		<p>持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 2.00ha</p> <p>(4)．奥澤隆は、畜産担い手育成総合整備事業により草地整備を行い自給粗飼料拡大を図りコントラクター組織に参加する。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 畜産担い手事業 12.41ha 自力草地更新 2.00ha</p> <p>(5)．渡部正昭は、畜産担い手育成事業を利用し不耕作地の利用を含め草地整備を行い自給粗飼料拡大を図りコントラクター組織に参加する。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 畜産担い手事業 16.90ha</p> <p>(6)．レークヒル牧場は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践す</p>	
--	--	---	--

		<p>る。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 2.00ha</p> <p>(7). 株河野牧場は、平成 32 年迄に草地整備事業による自給飼料等(不耕作地の利用)の生産性向上を図る。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質や栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 畜産担い手事業 21.41ha 市町草地更新事業 2.00ha</p> <p>(8). 山口幸貴は、畜産担い手育成事業を利用し不耕作地の利用を含め草地整備を行い自給粗飼料拡大を図りコントラクター組織に参加する。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 市町草地更新事業 8.00ha</p> <p>(9). 川村栄は、平成 32 年迄に草地整備事業による自給飼料拡大(不耕作地の利用・デントコーン)を図りコントラクター組織に参加する。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 市町草地更新事業 8.00ha</p>	
--	--	---	--

		<p>(10). ミルクオアシス豊浦は、平成 32 年迄に草地整備事業による自給飼料拡大(不耕作地の利用・デントコーン)を図りコントラクター組織に参加する。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～</p> <p>畜産担い手事業 4.44ha</p> <p>市町草地更新事業 10.00ha</p> <p>(11). 田中恭一は、不耕作地の利用を含め草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～</p> <p>自力草地更新 2.00ha</p> <p>(12). 杉上一弘は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/ 10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～</p> <p>自力草地更新 2.00ha</p> <p>(13). 松浦勝美は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～</p>	
--	--	---	--

		<p>市町草地更新事業 4.00ha</p> <p>(14). 梅津和弘は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～</p> <p>市町草地更新事業 3.00ha</p> <p>(15). 藤田敏邦は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、デントコーン作付けを維持しつつ 500 kg/10a 増加させ、蛋白質やデンプン質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～</p> <p>市町草地更新事業 3.00ha</p> <p>(16). 山崎繁信は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～</p> <p>自力草地更新 2.00ha</p>	
3	<p><u>肉用牛</u></p> <p>草地整備や草地更新を市町等の経費助成を受けながら計画的に実施し、自給飼料に立脚した安定的な経営を推進する。</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>肉牛農家 13 戸、乳肉複合農家 1 戸</p> <p>((有)カドワキ牧場、山田達彦、野々村哲男、山口浩一、松原功、北翔産業、平尾博、(有)近江牧場、宮田雪雄、込山文昭、(有)ミナミアグリシステム、高井一英、安孫子渉、谷田川和夫)</p> <p>《行動計画》</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>豊浦町、伊達市</p> <p>《行動計画》</p> <p>肉牛農家や乳肉複合農家が草地の自力更新する際に係る経費を助成する。</p>

1. 肉用牛と乳肉複合の各農家は、購入飼料に頼らない自給飼料に立脚した安定的な経営を目指すため、草地畜産基盤整備事業の活用による草地の整備（大区画化等）や市町による経費助成を受けた自力草地更新等により計画的な粗飼料生産基盤の維持・拡大を推進する。

草地整備計画面積			
	戸数	面積	
畜産担い手事業	10	188.2	ha
市町自力草地更新事業	9	55.5	ha
自力草地更新	16	29.0	ha
合計	35	272.7	ha
更新率		19.3	%
※デントコーン更新面積含む			
※合計戸数は延べ戸数			
※酪農家・肉牛農家			

2. 肉用牛と乳肉複合の各農家は、定期的な土壌分析、堆肥分析を行い環境に合わせた施肥設計を農業改良普及センターに依頼し、その分析結果による施肥設計をもとにした指導を受けながら適正な施肥を実施することで、飼料生産量の拡大を進める。取組の実施により、堆肥の投入により一番草作付けを維持しつつ、収量を 300 kg/10a 増加させ、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。又、野菜集出荷施設で出る廃棄物を活用し、自給飼料の利用拡大を図るとともに、畜産物の高付加価値化を図る。

(1). (有)近江牧場は、平成 32 年迄に草地整備事業による自給飼料等(不耕作地の利用)の生産性向上を図る。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質や栄養収量増加による飼料費削減を実践する。又、野菜集出荷施設で出る廃棄物を活用し、自給飼料の利用拡大を図るとともに、畜産物の高付加価値化を図る。

畜産担い手事業（草地整備）に係る受益者負担の一部を助成する。農地の集積等に係る調整をする。

《取組の主体》

壮瞥町

《行動計画》

畜産担い手事業（草地整備）に係る受益者負担の一部を助成する。農地の集積等に係る調整をする。

《取組の主体》

農業改良普及センター

《行動計画》

草地整備や更新において地域特性や圃場特性を考慮した種子選定を助言する。

土壌分析に基づいた施肥設計を行い、適切な肥料施用を指導する。

		<p>草地更新予定面積 H27～ 畜産担い手事業 23.80ha</p> <p>(2). 山田達彦は、平成 32 年迄に草地整備事業による自給飼料等(不耕作地の利用)の生産性向上を図る。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質や栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 畜産担い手事業 7.73ha 自力草地更新 2.00ha</p> <p>(3). カドワキ牧場は、平成 32 年迄に草地整備事業による自給飼料拡大(不耕作地の利用)を図りコントラクター組織に参加する。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。又、野菜集出荷施設で出る廃棄物を活用し、自給飼料の利用拡大を図るとともに、畜産物の高付加価値化を図る。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 畜産担い手事業 21.65ha</p> <p>(4). 山口浩一は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、コントラクター組織に参加する。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 1.00ha</p> <p>(5). 松原功は、平成 32 年迄に草地整備事業による自給飼料等(不耕作地の利用)の生産性向上を図る。取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、</p>	
--	--	---	--

		<p>堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質や栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 畜産担い手事業 3.14ha</p> <p>(6). 野々村哲男は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 2.00ha</p> <p>(7). (有)北翔産業は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 2.00ha</p> <p>(8). 平尾博は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 2.00ha</p> <p>(9). 宮田雪雄は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 2.00ha</p>	
--	--	--	--

		<p>(10). 込山文昭は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 1.00ha</p> <p>(11). (有)ミナミアグリシステムは、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 2.00ha</p> <p>(12). 高井一英は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 2.00ha</p> <p>(13). 安孫子渉は、不耕作地の利用を含め自力で草地整備し、取組の実施により、一番草作付けを維持しつつ、堆肥の投入により収量を 300 kg/10a 増加させ、蛋白質の増加を含め、栄養収量増加による飼料費削減を実践する。</p> <p>草地更新予定面積 H27～ 自力草地更新 1.00ha</p> <p>3. 肉用牛と乳肉複合の各農家は、町による調整等の助力を受けながら、離農や経営規模縮小により遊休化した農地を集積し、自らの飼料基盤拡大を進める。</p>	
--	--	--	--

3	<p>(自給飼料の拡大)</p> <p>広大な牧草地を有する公共牧場の積極的な利用を推進する。【再掲】</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>肉牛農家3戸 (北翔産業、高井一英、安孫子渉)</p> <p>《行動計画》</p> <p>肉牛農家は、夏期の労働時間短縮の為に公共牧場への放牧利用を拡大し、放牧により足腰の強い和牛繁殖牛を育てる。</p> <p>H27 入牧頭数 (北翔産業 73 頭、高井一英 12 頭、安孫子渉 3 頭)</p> <p>公共牧場入牧頭数 洞爺湖町 (現在) 6 戸 92 頭 → (目標) 7 戸 100 頭</p> <p>公共牧場入牧頭数 壮瞥町 (現在) 7 戸 38 頭 → (目標) 8 戸 50 頭</p>	<p>《取組の主体》</p> <p>豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区</p> <p>《行動計画》</p> <p>公共牧場利用の係る金銭的な負担軽減のため、入牧料に助成する。</p>

※ 「番号」は、「1 目的」及び「2 協議会の取組内容」の番号と対応すること。

※ 「行動計画の詳細」には、2 協議会の取組内容に記載した「目的達成のための取組」の詳細な行動計画と「取組における中心的な経営体とその他の構成員の連携・役割分担」に対応する具体的な行動計画を記載する。具体的な行動計画とは、取組の主体毎に、これまでの取組内容、どのような取組を誰と、いつ (いつからいつまで)、どのような規模、方法により実施するのかを具体的に記載する。これにより、①取組の主体が果たすべき役割、②計画の実現可能性を明確化すること。

※ 中心的な経営体欄の《取組の主体》、《行動計画》は、個々の中心的な経営体別に記載するものとする。ただし、複数の中心的な経営体が連携して、同一又は類似の取組を行う場合にあっては、《取組の主体》に個々の中心的な経営体を明らかにした上で、共通する取組について《行動計画》に包括して記載することができるものとする。ただし、この場合、個々の中心的な経営体の取組内容の違い (規模、時期、方法等) は、4 の中心的な経営体の概要で明らかにするものとする。

※ 全体的な調整、推進の役割を果たす構成員 (事務局等) が、不特定多数の者を対象とした取組を実施する場合には、様式下段を参考として、

その取組に係る中心的な経営体を明らかにしつつ、中心的な経営体以外の者も含む不特定多数の者を対象とした取組であることがわかるよう記載する。

4 中心的な経営体の概要

中心的な経営体の名称	畜産農家・受託組織・新規就農者の別及び飼養畜種		取組における中心的な経営体の役割及び連携の内容 ※「2 協議会の取組内容」毎に中心的な経営体の役割・連携の相手方を記載 ※「番号」欄には「2 協議会の取組内容」の該当する番号を記載		活用が見込まれる施策					
	畜産農家等の別	飼養畜種	番号	役割・連携の内容	施設整備	機械導入	調査・実証・推進	畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業	畜産・酪農生産力強化対策事業	畜産経営体質強化支援資金融通事業
山口 一敏	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー）</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合）</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、乳検データ活用による乳質改善（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、JAサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会）</p> <p>草地整備による圃場生産性の向上（連携の相手方：豊浦町、壮瞥町、伊達市、農業改良普及センター）</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改</p>		○		○	○	

				良普及センター)						
(有)K・B・F	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>H29年度までに搾乳ロボット、自動給餌機を導入したフリーストール牛舎を新設し、経営体系の確立・普及に協力(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>草地整備による圃場生産性の向上(連携の相手方:豊浦町、壮瞥町、伊達市、農業改良普及センター)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>	○	○		○	○	
(株)河野牧場	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、乳検データ活用による乳質改善(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>草地整備による圃場生産性の向上(連携の相手方:豊浦町、壮瞥町、伊達市、農業改良普及センター)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>		○		○	○	

米田 正次	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>H32年まで搾乳ロボットを導入したフリーストール牛舎を新設し、生乳増産体制を構築 (連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>乳検データ活用による乳質改善(連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>	○	○		○	○	
奥澤 隆	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席(連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>乳検データ活用による乳質改善(連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>草地整備による圃場生産性の向上(連携の相手方：豊浦町、伊達市、洞爺湖町、農業改良普及センター)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>		○		○	○	
川村 栄	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席(連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械</p>		○		○	○	

				<p>メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>育成牛預託システムの実施、実証への協力(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖酪農振興会)</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、乳検データ活用による乳質改善(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、JAサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>						
(有)ミルクオアシス豊浦	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>育成牛預託システムの実施、実証への協力(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖酪農振興会)</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、JAサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>草地整備による圃場生産性の向上(連携の相手方:豊浦町、伊達市、洞爺湖町、農業改良普及センター)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>		○		○	○	
山口 幸貴	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>育成牛預託システムの実施、実証への協力(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖酪農振興会)</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、JAサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>草地整備による圃場生産性の向上(連携の相手方:豊浦町、伊達市、洞爺湖町、農業改良普及センター)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>		○		○	○	

				<p>浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>育成牛預託システムの実施、実証への協力(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖酪農振興会)</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、乳検データ活用による乳質改善(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>						
渡部 正昭	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>乳検データ活用による乳質改善(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>草地整備による圃場生産性の向上(連携の相手方:豊浦町、伊達市、洞爺湖町、農業改良普及センター)</p>		○		○	○	
山崎 繁信	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農</p>		○		○	○	

				<p>業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>乳検データ活用による乳質改善 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>						
田中 恭一	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>乳検データ活用による乳質改善 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>		○		○	○	
杉上 一弘	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、乳検データ活用による乳質改善 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改</p>		○		○	○	

				良普及センター)						
レークヒル 牧場	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー）</p> <p>乳検データ活用による乳質改善（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会）</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合）</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター）</p>		○		○	○	
松浦 勝美	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー）</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合）</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、乳検データ活用による乳質改善（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会）</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター）</p>		○	○	○	○	
藤田 敏邦	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー）</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農</p>		○		○	○	

				<p>業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、乳検データ活用による乳質改善(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>						
梅津 和弘	酪農	乳牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>酪農ヘルパーの利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや湖酪農ヘルパー利用組合)</p> <p>育成牛預託システムの実施、実証への協力(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖酪農振興会)</p> <p>受精卵移植や性別別精液の利用拡大、乳検データ活用による乳質改善(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会)</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、農業改良普及センター)</p>		○	○	○	○	
(有)カドワキ 牧場	肉畜	肉牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー)</p> <p>育成牛預託システムの実施、実証への協力(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合)</p> <p>高育種価牛の採卵実施(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや</p>		○		○	○	

				湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合) 受精卵移植の利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合) 草地整備による圃場生産性の向上(連携の相手方:豊浦町、壮瞥町、伊達市、農業改良普及センター)						
山田 達彦	酪農 ・肉牛	乳牛 肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー) 受精卵移植や性別別精液の利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、J Aサツラク、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、とうや湖乳牛検定組合、ホクレン、とうや湖酪農振興会) H29年まで繁殖牛舎を新設し、「育成牛預託システム」等の産子を受入(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合) とうや湖和牛のブランド化(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合) 草地整備による圃場生産性の向上(連携の相手方:豊浦町、壮瞥町、伊達市、農業改良普及センター)	○	○		○	○	
野々村 哲 男	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー) 受精卵移植の利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛		○		○	○	

				生産改良組合) とうや湖和牛のブランド化 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合) 施肥設計による自力草地更新の実施 (連携の相手方: 豊浦町、伊達市、農業改良普及センター)						
山口 浩一	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー) とうや湖和牛のブランド化 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合) 施肥設計による自力草地更新の実施 (連携の相手方: 豊浦町、伊達市、農業改良普及センター)		○		○	○	
松原 功	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー) とうや湖和牛のブランド化 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合) 草地整備による圃場生産性の向上 (連携の相手方: 豊浦町、壮瞥町、伊達市、農業改良普及センター)		○		○	○	
北翔産業	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー) 受精卵移植の利用拡大 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合)		○		○	○	

				<p>とうや湖和牛のブランド化（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合）</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施（連携の相手方：豊浦町、伊達市、農業改良普及センター）</p> <p>公共牧場への預託頭数の拡大（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市）</p>						
平尾 博	肉牛	肉牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー）</p> <p>高育種価牛の採卵実施（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合）</p> <p>受精卵移植の利用拡大（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合）</p> <p>とうや湖和牛のブランド化（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合）</p> <p>施肥設計による自力草地更新の実施（連携の相手方：豊浦町、伊達市、農業改良普及センター）</p>		○		○	○	
(有)近江牧場	肉牛	肉牛	1, 2, 3	<p>省力化機械や高生産性大型作業機械の導入、検討会や講習会への出席（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー）</p> <p>高育種価牛の採卵実施（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合）</p> <p>とうや湖和牛のブランド化（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合）</p>		○		○	○	

				J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合) 草地整備による圃場生産性の向上(連携の相手方:豊浦町、壮瞥町、伊達市、農業改良普及センター)						
宮田雪雄	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー) 受精卵移植の利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合) とうや湖和牛のブランド化(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合) 施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、伊達市、農業改良普及センター)		○		○	○	
込山文昭	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー) 育成牛預託システムの実施、実証への協力(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合) 受精卵移植の利用拡大(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合) とうや湖和牛のブランド化(連携の相手方:豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合) 施肥設計による自力草地更新の実施(連携の相手方:豊浦町、伊達市、農業改良普及セン		○	○	○	○	

				ター)						
(有)ミナミア グリシステム	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー） とうや湖和牛のブランド化（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、JAとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合） 施肥設計による自力草地更新の実施（連携の相手方：豊浦町、伊達市、農業改良普及センター）		○		○	○	
高井一英	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー） 受精卵移植の利用拡大（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合） とうや湖和牛のブランド化（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、JAとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合） 施肥設計による自力草地更新の実施（連携の相手方：豊浦町、伊達市、農業改良普及センター） 公共牧場への預託頭数の拡大（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市）		○		○	○	
安孫子 渉	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー） とうや湖和牛のブランド化（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、JAとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合） 施肥設計による自力草地更新の実施（連携の相手方：豊浦町、伊達市、農業改良普及セン		○		○	○	

				ター) 公共牧場への預託頭数の拡大 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市)						
谷田川 和夫	肉牛	肉牛	1, 2, 3	省力化機械や高生産性大型作業機械の検討会や講習会への出席 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、酪農家、肉牛農家、機械メーカー) 育成牛預託システムの実施、実証への協力 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合) 受精卵移植の利用拡大 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、J Aとうや湖、農業改良普及センター、いぶり農業共済組合、(株)とかち繁殖技術研究所、とうや和牛生産改良組合) とうや湖和牛のブランド化 (連携の相手方: 豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市大滝区、J Aとうや湖、農業改良普及センター、とうや和牛生産改良組合) 施肥設計による自力草地更新の実施 (連携の相手方: 豊浦町、伊達市、農業改良普及センター)		○	○	○	○	
(有)ゲズント農場	養豚	豚	1, 2	H29年10月までに繁殖育成センター(豚舎の新設)及び改修をし、地域生産分業体制を構築、各種検討会、講習会への出席、エコフィールドの利用推進、耕畜連携、イベント協力 (連携の相手方: 豊浦町、J Aとうや湖、農業改良普及センター、農業共済組合、ホクレン、とうや湖養豚振興会、養豚農家)	○	○		○	○	
(有)フロイデ農場	養豚	豚	1, 2	将来的な地域生産分業体制を構築、各種検討会、講習会への出席、エコフィールドの利用推進、耕畜連携、イベント協力 (連携の相手方: 豊浦町、J Aとうや湖、農業改良普及センター、農業共済組合、ホクレン、とうや湖養豚振興会、養豚農家)	○	○		○	○	
入船敏光	養豚	豚	1, 2	将来的な地域生産分業体制を構築、各種検討会、講習会への出席、エコフィールドの利用推進、耕畜連携、イベント協力 (連携の相手方: 豊浦町、J Aとうや湖、農業改良普及センター、農業共済組合、ホクレン、とうや湖養豚振興会、養豚農家)		○		○	○	

CFI 株式会 社	受託 組織		1	H28年に酪農家・肉牛農家が連携しコントラクター組織を設立し、大型作業機械の導入により飼料生産作業を受託（連携の相手方：豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町、伊達市、JAとうや湖、農業改良普及センター、作業委託農家）		○			○	
--------------	----------	--	---	--	--	---	--	--	---	--

※ 「4 中心的な経営体の概要」には、中心的な経営体の概要及び取組の内容、連携の相手方を「2 協議会の取組内容」及び「3 行動計画」に沿って記載する。

※ 中心的な経営体が活用を見込んでいる施策があれば、その施策名を記載する。国庫補助事業以外でも活用を見込んでいる施策があれば記載する。

5 取組により期待される効果

番号	期待される効果 (生産コストの低減、高付加価値化、新規需要の創出等の内容)	目 標	検証方法
1	(労働負担の軽減) <重点テーマに対する効果> (施設整備等事業実施による直接的な効果) 1. 搾乳ロボット等の導入による搾乳作業、給餌作業の負荷軽減 2. コントラクター組織への作	<<重点テーマ>>に係るKPI>> 削減労働時間 7,230.4時間 1. 搾乳ロボット等の導入による搾乳、給餌作業等の負荷軽減【1,780時間削減】 【(有)KBF】 現状(H27) 目標(H32) 増減 搾乳作業 3.77h/日 1.89h/日 △1.88h/日 (年間686時間削減) 給餌作業 1.61h/日 0.17h/日 △1.44h/日 (年間525時間削減) 【米田正次】	1. 機械導入前後の各作業時間の農家聞き取り調査、導入機械作業能力のメーカー確認

<p>業委託による飼料生産作業の 負荷軽減</p> <p>3. 高性能大型作業機械の導入 による飼料生産作業、堆肥散 布作業等の負荷軽減</p> <p>(連携の取組みによる間接的な 効果)</p> <p>1. 酪農ヘルパーの利用拡大に よる飼養管理作業の軽減</p> <p>2. 公共牧場の利用拡大による 飼養管理、繁殖管理作業の軽 減</p> <p>《付随テーマに対する効果》</p> <p>1. 搾乳ロボット等の導入によ る飼養頭数の増加</p> <p>2. 公共牧場の利用拡大による 自給飼料の有効活用</p> <p>《収益性向上効果》</p>	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状 (H27)</td> <td>目標 (H32)</td> <td>増減</td> <td></td> </tr> <tr> <td>搾乳作業</td> <td>2.74h/日</td> <td>1.37h/日</td> <td>△1.37h/日</td> <td>(年間 500 時間削減)</td> </tr> <tr> <td>給餌作業</td> <td>1.67h/日</td> <td>0.17h/日</td> <td>△1.50h/日</td> <td>(年間 547 時間削減)</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">【自動給餌機】</td> </tr> <tr> <td></td> <td>現状 (H27)</td> <td>目標 (H32)</td> <td>増減</td> <td></td> </tr> <tr> <td>給餌作業</td> <td>6h/日</td> <td>2h/日</td> <td>△4h/日</td> <td>(年間 1,460 時間削減) ※事例 6※</td> </tr> </table> <p>2. コントラクター組織への作業委託による飼料生産作業の負荷軽減 【3,851.8 時間削減】</p> <p>【牧草作業委託】</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>目標 (H32)</td> <td>作業時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 番草作業</td> <td>419.4ha</td> <td>4.64h/ha</td> <td>(1,944.1 時間削減)</td> </tr> <tr> <td>2 番草作業</td> <td>392.0ha</td> <td>4.64h/ha</td> <td>(1,818.8 時間削減)</td> </tr> </table> <p>【デントコーン作業委託】</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>目標 (H32)</td> <td>作業時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>収穫作業</td> <td>112.0ha</td> <td>0.80h/ha</td> <td>(89.6 時間削減)</td> </tr> </table> <p>3. 高性能大型作業機械の導入による飼料生産作業、堆肥散布作業等の負荷軽減 【138.6 時間削減】</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状 (H27)</td> <td>現状時間</td> <td>目標時間</td> <td>年間削減時間</td> </tr> <tr> <td>牧草収穫作業</td> <td>149.7h/ha</td> <td>236.4</td> <td>178.3</td> <td>(58.1 時間削減)</td> </tr> <tr> <td>堆肥調製作業</td> <td>181.7h/ha</td> <td>118.0</td> <td>54.6</td> <td>(63.7 時間削減)</td> </tr> <tr> <td>堆肥還元作業</td> <td>62.0h/ha</td> <td>10.7a</td> <td>22.9</td> <td>(16.8 時間削減)</td> </tr> </table> <p>(連携の取組みによる間接的な効果)</p> <p>1. 酪農ヘルパーの利用拡大による飼養管理作業の軽減 【824 時間削減】</p>		現状 (H27)	目標 (H32)	増減		搾乳作業	2.74h/日	1.37h/日	△1.37h/日	(年間 500 時間削減)	給餌作業	1.67h/日	0.17h/日	△1.50h/日	(年間 547 時間削減)		【自動給餌機】					現状 (H27)	目標 (H32)	増減		給餌作業	6h/日	2h/日	△4h/日	(年間 1,460 時間削減) ※事例 6※		目標 (H32)	作業時間		1 番草作業	419.4ha	4.64h/ha	(1,944.1 時間削減)	2 番草作業	392.0ha	4.64h/ha	(1,818.8 時間削減)		目標 (H32)	作業時間		収穫作業	112.0ha	0.80h/ha	(89.6 時間削減)		現状 (H27)	現状時間	目標時間	年間削減時間	牧草収穫作業	149.7h/ha	236.4	178.3	(58.1 時間削減)	堆肥調製作業	181.7h/ha	118.0	54.6	(63.7 時間削減)	堆肥還元作業	62.0h/ha	10.7a	22.9	(16.8 時間削減)	<p>2. 機械導入前後 の各作業時間の農 家聞き取り調査、 導入前後の機械作 業能力のメーカー 確認</p> <p>3. 機械導入前後 の各作業時間の農 家聞き取り調査、 導入前後の機械作 業能力のメーカー 確認</p>
	現状 (H27)	目標 (H32)	増減																																																																					
搾乳作業	2.74h/日	1.37h/日	△1.37h/日	(年間 500 時間削減)																																																																				
給餌作業	1.67h/日	0.17h/日	△1.50h/日	(年間 547 時間削減)																																																																				
	【自動給餌機】																																																																							
	現状 (H27)	目標 (H32)	増減																																																																					
給餌作業	6h/日	2h/日	△4h/日	(年間 1,460 時間削減) ※事例 6※																																																																				
	目標 (H32)	作業時間																																																																						
1 番草作業	419.4ha	4.64h/ha	(1,944.1 時間削減)																																																																					
2 番草作業	392.0ha	4.64h/ha	(1,818.8 時間削減)																																																																					
	目標 (H32)	作業時間																																																																						
収穫作業	112.0ha	0.80h/ha	(89.6 時間削減)																																																																					
	現状 (H27)	現状時間	目標時間	年間削減時間																																																																				
牧草収穫作業	149.7h/ha	236.4	178.3	(58.1 時間削減)																																																																				
堆肥調製作業	181.7h/ha	118.0	54.6	(63.7 時間削減)																																																																				
堆肥還元作業	62.0h/ha	10.7a	22.9	(16.8 時間削減)																																																																				

<p>① 働時間削減 824 時間 × 7,960 円/h(労務単価) =6,559 千円</p> <p>②付随 (搾乳ロボット) 40 頭(増加分) × 8,444kg/頭 × 88 円/kg(乳価) + 10,005 千円(頭当乳量増分) =39,727 千円</p> <p>【小計】 46,286 千円</p>	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状(H27)</td> <td>目標(H32)</td> <td>増減</td> <td>作業時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用回数</td> <td>397 回</td> <td>500 回</td> <td>103 回</td> <td>8h/回</td> <td>(824 時間削減)</td> </tr> </table> <p>2. 公共牧場の利用拡大による飼養管理、繁殖管理作業の軽減【353 時間削減】</p> <p>【入牧頭数】</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状(H27)</td> <td>目標(H32)</td> <td>増減</td> <td>作業時間</td> <td>預託日数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>洞爺湖町</td> <td>92 頭</td> <td>100 頭</td> <td>8 頭</td> <td>0.11h/頭</td> <td>169 日</td> <td>(148 時間削減)</td> </tr> <tr> <td>壮瞥町</td> <td>38 頭</td> <td>50 頭</td> <td>12 頭</td> <td>0.11h/頭</td> <td>156 日</td> <td>(205 時間削減)</td> </tr> </table> <p>≪付随テーマに対する効果≫</p> <p>1. 搾乳ロボット等の導入による飼養頭数の増加</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状(H27)</td> <td>目標(H32)</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>経産牛頭数</td> <td>136 頭</td> <td>176 頭</td> <td>40 頭</td> </tr> <tr> <td>経産牛乳量</td> <td>7,608 kg</td> <td>8,444 kg</td> <td>836 kg</td> </tr> <tr> <td>生乳生産量</td> <td>1,034 t</td> <td>1,486 t</td> <td>452 t</td> </tr> </table> <p>2. 公共牧場の利用拡大による自給飼料の有効活用</p> <p>【番号3で効果計上】</p>		現状(H27)	目標(H32)	増減	作業時間		利用回数	397 回	500 回	103 回	8h/回	(824 時間削減)		現状(H27)	目標(H32)	増減	作業時間	預託日数		洞爺湖町	92 頭	100 頭	8 頭	0.11h/頭	169 日	(148 時間削減)	壮瞥町	38 頭	50 頭	12 頭	0.11h/頭	156 日	(205 時間削減)		現状(H27)	目標(H32)	増減	経産牛頭数	136 頭	176 頭	40 頭	経産牛乳量	7,608 kg	8,444 kg	836 kg	生乳生産量	1,034 t	1,486 t	452 t	<p>1. 酪農ヘルパー組合の事業報告書等の確認</p> <p>2. 公共牧場の事業報告書等の確認</p> <p>1. 飼養頭数調査、乳検データ、JA販売取扱高の確認</p>
	現状(H27)	目標(H32)	増減	作業時間																																															
利用回数	397 回	500 回	103 回	8h/回	(824 時間削減)																																														
	現状(H27)	目標(H32)	増減	作業時間	預託日数																																														
洞爺湖町	92 頭	100 頭	8 頭	0.11h/頭	169 日	(148 時間削減)																																													
壮瞥町	38 頭	50 頭	12 頭	0.11h/頭	156 日	(205 時間削減)																																													
	現状(H27)	目標(H32)	増減																																																
経産牛頭数	136 頭	176 頭	40 頭																																																
経産牛乳量	7,608 kg	8,444 kg	836 kg																																																
生乳生産量	1,034 t	1,486 t	452 t																																																
<p>2 (飼養規模の拡大、飼養管理の改善)</p> <p>≪重点テーマに対する効果≫ (施設整備等事業実施による直接的な効果)</p> <p>1. 育成牛預託システムの運用</p>	<p>≪重点テーマ≫に係るKPI 別掲 (p 77 ~ p 79)</p> <p>≪重点テーマに対する効果≫ (施設整備等事業実施による直接的な効果)</p> <p>1. 育成牛預託システムの運用による飼養規模の拡大</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状(H27)</td> <td>目標(H32)</td> <td>増減</td> </tr> </table>		現状(H27)	目標(H32)	増減	<p>1. 飼養頭数調査、乳検データ、JA販売取扱高の確認</p>																																													
	現状(H27)	目標(H32)	増減																																																

<p>による経産牛飼養規模の拡大</p> <p>2. 養豚における地域分業体制の実施による飼養規模の拡大、飼養管理の改善</p> <p>(連携の取組みによる間接的な効果)</p> <p>1. 育成牛預託システムの運用による繁殖牛飼養規模の拡大</p> <p>2. 育成牛預託システムの運用による経産牛飼養規模の拡大(初生牛販売の拡大)</p> <p>3. 地域生産分業体制による雇用の創出</p> <p>《付随テーマに対する効果》</p> <p>1. 育成牛預託システムによる酪農家の労働負荷軽減</p> <p>2. 養豚におけるエコフィード、堆肥の活用による自給飼料の利用拡大</p> <p>《収益性向上効果》</p> <p>① 飼養規模の拡大(乳量)</p> <p>32頭(増加分) × 9,444kg/頭</p>	<table border="0"> <tr> <td>経産牛頭数</td> <td>175頭</td> <td>207頭</td> <td>32頭</td> </tr> <tr> <td>経産牛乳量</td> <td>9,400kg</td> <td>9,400kg</td> <td>0kg</td> </tr> <tr> <td>生乳生産量</td> <td>1,645t</td> <td>1,945t</td> <td>300t</td> </tr> </table> <p>2. 地域生産分業体制の実施による飼養規模の拡大、飼養管理の改善</p> <p>【肥育豚40,220頭増加】</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状(H27)</td> <td>目標(H32)</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>肥育豚出荷頭数</td> <td>24,780頭</td> <td>65,000頭</td> <td>40,220頭</td> </tr> <tr> <td>肥育豚販売単価</td> <td>39千円</td> <td>32千円</td> <td>△7千円 削除</td> </tr> </table> <p>(連携の取組みによる間接的な効果)</p> <p>1. 育成牛預託システムの運用による繁殖牛飼養規模の拡大</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状(H27)</td> <td>目標(H32)</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>繁殖牛頭数</td> <td>1,301頭</td> <td>1,391頭</td> <td>90頭</td> </tr> <tr> <td>和牛素牛販売頭数</td> <td>576頭</td> <td>656頭</td> <td>80頭</td> </tr> <tr> <td>和牛肥育販売頭数</td> <td>189頭</td> <td>209頭</td> <td>20頭</td> </tr> </table> <p>2. 育成牛預託システムの運用による経産牛飼養規模の拡大(初生牛販売の拡大)</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>現状(H27)</td> <td>目標(H32)</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>経産牛頭数</td> <td>944頭</td> <td>1,030頭</td> <td>86頭</td> </tr> <tr> <td>初生牛販売頭数</td> <td>391頭</td> <td>434頭</td> <td>43頭</td> </tr> </table> <p>3. 地域生産分業体制による雇用の創出</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>目標(H32)</td> <td>年間日数</td> </tr> <tr> <td>新規雇用</td> <td>6名</td> <td>280日</td> </tr> </table>	経産牛頭数	175頭	207頭	32頭	経産牛乳量	9,400kg	9,400kg	0kg	生乳生産量	1,645t	1,945t	300t		現状(H27)	目標(H32)	増減	肥育豚出荷頭数	24,780頭	65,000頭	40,220頭	肥育豚販売単価	39千円	32千円	△7千円 削除		現状(H27)	目標(H32)	増減	繁殖牛頭数	1,301頭	1,391頭	90頭	和牛素牛販売頭数	576頭	656頭	80頭	和牛肥育販売頭数	189頭	209頭	20頭		現状(H27)	目標(H32)	増減	経産牛頭数	944頭	1,030頭	86頭	初生牛販売頭数	391頭	434頭	43頭		目標(H32)	年間日数	新規雇用	6名	280日	<p>2. JA販売取扱高、法人決算報告書の確認</p> <p>1. 飼養頭数調査、JA販売取扱高の確認</p> <p>2. 飼養頭数調査、JA販売取扱高の確認</p> <p>3. 雇用保険被保険者台帳等の確認</p>
経産牛頭数	175頭	207頭	32頭																																																									
経産牛乳量	9,400kg	9,400kg	0kg																																																									
生乳生産量	1,645t	1,945t	300t																																																									
	現状(H27)	目標(H32)	増減																																																									
肥育豚出荷頭数	24,780頭	65,000頭	40,220頭																																																									
肥育豚販売単価	39千円	32千円	△7千円 削除																																																									
	現状(H27)	目標(H32)	増減																																																									
繁殖牛頭数	1,301頭	1,391頭	90頭																																																									
和牛素牛販売頭数	576頭	656頭	80頭																																																									
和牛肥育販売頭数	189頭	209頭	20頭																																																									
	現状(H27)	目標(H32)	増減																																																									
経産牛頭数	944頭	1,030頭	86頭																																																									
初生牛販売頭数	391頭	434頭	43頭																																																									
	目標(H32)	年間日数																																																										
新規雇用	6名	280日																																																										

<p>× 88 円/kg(乳価) = <u>26,594 千円</u></p> <p>② 飼養規模の拡大(肥育豚) 40,220 頭(増加分) × 32 千円(単価) +△193,327 千円(単価変動分) = <u>1,093,713 千円</u></p> <p>③ 間接(素牛販売) 80 頭(素牛増加分) × 626 千円(単価) + 91 千円(単価変動分) = <u>50,171 千円</u></p> <p>④ 間接(肥育牛販売) 20 頭(肥育牛増加分) × 1,100 千円(単価) + △10,425 千円(単価変動分) = <u>11,575 千円</u></p> <p>⑤ 間接(経産牛・乳量) 86 頭(増加分) × 8,450kg/頭(頭当乳量) × 88 円/kg(乳価) + 33,794 千円(頭当乳量増分) + △66,321 千円(効果重複分) = <u>31,422 千円</u></p> <p>⑥ 間接(初生牛販売)</p>	<p>《付随テーマに対する効果》</p> <p>1. 育成牛預託システムによる酪農家の労働負荷軽減</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H27)</th> <th>目標(H32)</th> <th>増減</th> <th>労働時間</th> <th>労務費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>預託頭数</td> <td>34 頭</td> <td>55 頭</td> <td>21 頭</td> <td>13.1h/頭・年</td> <td>1 千円/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 養豚におけるエコフィード、堆肥の活用による自給飼料の利用拡大</p> <p>【エコフィード】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H27)</th> <th>目標(H32)</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>飼料用米利用</td> <td>4t</td> <td>6t</td> <td>2t</td> </tr> <tr> <td>ホエー・シロップ^o利用</td> <td>280t</td> <td>1,400t</td> <td>1,120t</td> </tr> <tr> <td>飼料換算金額</td> <td>14,000 千円</td> <td>70,000 千円</td> <td>56,000 千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【堆肥】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H27)</th> <th>目標(H32)</th> <th>増減</th> <th>肥料単価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥還元量</td> <td>20,148t</td> <td>54,732t</td> <td>34,584t</td> <td>2 千円/t</td> </tr> </tbody> </table> <p>※単価変動分とは平成27年度の実績において、単価が高かったため目標年における単価と平成27年度の単価を統一して効果を算出</p> <p>例 24780 頭×32 千円=792960 千円 H27 実績 986287 千円-792960 千円=193327 千円(単価下方修正分) 増頭分 40220 頭×32 千円=1287040 千円-193327 千円=1093713 千円</p>		現状(H27)	目標(H32)	増減	労働時間	労務費	預託頭数	34 頭	55 頭	21 頭	13.1h/頭・年	1 千円/h		現状(H27)	目標(H32)	増減	飼料用米利用	4t	6t	2t	ホエー・シロップ ^o 利用	280t	1,400t	1,120t	飼料換算金額	14,000 千円	70,000 千円	56,000 千円		現状(H27)	目標(H32)	増減	肥料単価	堆肥還元量	20,148t	54,732t	34,584t	2 千円/t	<p>1. 育成牛預託支払い確認、及び契約等の確認</p> <p>2. 飼料用米利用契約書、ホエー・シロップ^o供給契約書、耕畜連携に伴う支払い等の確認</p>
	現状(H27)	目標(H32)	増減	労働時間	労務費																																			
預託頭数	34 頭	55 頭	21 頭	13.1h/頭・年	1 千円/h																																			
	現状(H27)	目標(H32)	増減																																					
飼料用米利用	4t	6t	2t																																					
ホエー・シロップ ^o 利用	280t	1,400t	1,120t																																					
飼料換算金額	14,000 千円	70,000 千円	56,000 千円																																					
	現状(H27)	目標(H32)	増減	肥料単価																																				
堆肥還元量	20,148t	54,732t	34,584t	2 千円/t																																				

<p>43 頭(初生牛増加分) × 118 千円(単価) + 13 千円(単価変動分) = <u>5,087 千円</u></p> <p>⑦ 間接(雇用) 6 名(新規雇用) × 10 千円/日(労務単価) × 280 日(年間日数) = <u>1,680 千円</u></p> <p>⑧ 付随(労働負担軽減) 21 頭(増加分) × 13.1 時間/頭・年(作業時間) × 1 千円/h(労務単価) = <u>275 千円</u></p> <p>⑨ 付随(エコフィード) 1,120t(増加分) × 50 千円/t(飼料換算単価) = <u>56,000 千円</u></p> <p>⑩ 付随(堆肥還元) 34,584t(増加分) × 2 千円/t(肥料換算単価) = <u>69,168 千円</u></p> <p>【小計】 <u>1,345,685 千円</u></p>		
---	--	--

3	(自給飼料の拡大)	≪重点テーマ≫に係るKPI 別掲 (p 77、p 78)																																													
	<重点テーマに対する効果> (施設整備等事業実施による直接的な効果) なし (連携の取組みによる間接的な効果) 1. 計画的な草地整備や草地更新による飼料収穫量の増加 2. 公共牧場の利用拡大による自給飼料の有効活用 ≪付随テーマに対する効果≫ 1. 公共牧場の利用拡大による飼養管理、繁殖管理作業の軽減 ≪収益性向上効果≫ ①自給飼料の拡大(整備・更新) (300kg/10a(増加分)) × 1,457.2ha(草地面積)÷	<重点テーマに対する効果> (施設整備等事業実施による直接的な効果) なし (連携の取組みによる間接的な効果) 1. 計画的な草地整備や草地更新による飼料収穫量の増加 【酪農】 <table border="1" data-bbox="660 710 1568 1045"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H27)</th> <th>目標(H32)</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>牧草作付面積</td> <td>926.2ha</td> <td>951.6ha</td> <td>25.4ha</td> </tr> <tr> <td>牧草収量</td> <td>3,170kg/10a</td> <td>3,470kg/10a</td> <td>300 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>牧草サイレージ生産量</td> <td>29,361t</td> <td>33,021t</td> <td>3,660 t</td> </tr> <tr> <td>デントコーン作付面積</td> <td>217.5ha</td> <td>233.5ha</td> <td>16.0ha</td> </tr> <tr> <td>デントコーン収量</td> <td>5,470kg/10a</td> <td>5,970kg/10a</td> <td>500 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>デントコーンサイレージ生産量</td> <td>11,897t</td> <td>13,940t</td> <td>2,043 t</td> </tr> </tbody> </table> 【肉用牛】 <table border="1" data-bbox="660 1157 1568 1348"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H27)</th> <th>目標(H32)</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>牧草作付面積</td> <td>498.1ha</td> <td>505.6ha</td> <td>7.5ha</td> </tr> <tr> <td>牧草収量</td> <td>3,170kg/10a</td> <td>3,470kg/10a</td> <td>300 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>牧草収穫量</td> <td>15,790t</td> <td>17,544t</td> <td>1,755 t</td> </tr> </tbody> </table>		現状(H27)	目標(H32)	増減	牧草作付面積	926.2ha	951.6ha	25.4ha	牧草収量	3,170kg/10a	3,470kg/10a	300 kg/10a	牧草サイレージ生産量	29,361t	33,021t	3,660 t	デントコーン作付面積	217.5ha	233.5ha	16.0ha	デントコーン収量	5,470kg/10a	5,970kg/10a	500 kg/10a	デントコーンサイレージ生産量	11,897t	13,940t	2,043 t		現状(H27)	目標(H32)	増減	牧草作付面積	498.1ha	505.6ha	7.5ha	牧草収量	3,170kg/10a	3,470kg/10a	300 kg/10a	牧草収穫量	15,790t	17,544t	1,755 t	1. 草地整備・更新に関する確認立会、牧草収量調査及び粗飼料分析、TDN生産量の検算、TDN自給率の実績評価
	現状(H27)	目標(H32)	増減																																												
牧草作付面積	926.2ha	951.6ha	25.4ha																																												
牧草収量	3,170kg/10a	3,470kg/10a	300 kg/10a																																												
牧草サイレージ生産量	29,361t	33,021t	3,660 t																																												
デントコーン作付面積	217.5ha	233.5ha	16.0ha																																												
デントコーン収量	5,470kg/10a	5,970kg/10a	500 kg/10a																																												
デントコーンサイレージ生産量	11,897t	13,940t	2,043 t																																												
	現状(H27)	目標(H32)	増減																																												
牧草作付面積	498.1ha	505.6ha	7.5ha																																												
牧草収量	3,170kg/10a	3,470kg/10a	300 kg/10a																																												
牧草収穫量	15,790t	17,544t	1,755 t																																												

<p>5(乾物) × 25 円/kg(飼料費) = 21,858 千円</p> <p>②自給飼料の拡大(公共牧場) 30,628kg × 25 円/kg(飼料費) = <u>765 千円</u></p> <p>【小計】 22,623 千円</p> <p>【合計】 <u>1,368,308 千円</u></p>	<p>2. 公共牧場の利用拡大による自給飼料の有効活用 成牛体重 500 kg 乾物 9.5 kg/日摂取 牧草単価 25 円/kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状(H27)</th> <th>目標(H32)</th> <th>増減</th> <th>日数</th> <th>乾物量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洞爺湖町</td> <td>92 頭</td> <td>100 頭</td> <td>8 頭</td> <td>169 日</td> <td>12,844 kg</td> </tr> <tr> <td>壮瞥町</td> <td>38 頭</td> <td>50 頭</td> <td>12 頭</td> <td>156 日</td> <td>17,784 kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>《付随テーマに対する効果》</p> <p>1. 公共牧場の利用拡大による飼養管理、繁殖管理作業の軽減 【番号1で効果計上】</p>		現状(H27)	目標(H32)	増減	日数	乾物量	洞爺湖町	92 頭	100 頭	8 頭	169 日	12,844 kg	壮瞥町	38 頭	50 頭	12 頭	156 日	17,784 kg	<p>2. 公共牧場の事業報告書等の確認</p>
	現状(H27)	目標(H32)	増減	日数	乾物量															
洞爺湖町	92 頭	100 頭	8 頭	169 日	12,844 kg															
壮瞥町	38 頭	50 頭	12 頭	156 日	17,784 kg															

■経産牛頭数		86 頭	増加	(平成32年度)
■生乳生産量		1,138 トン	増加	(平成32年度)
■生乳販売代金		97,743 千円	増加	(平成32年度)

項 目	現状(H27)	目標(H32)	KPI
酪農家戸数	22 戸	18 戸	△ 4 戸
経産牛頭数	944 頭	1,030 頭	86 頭
経産牛乳量	8,014 kg/頭	8,450 kg/頭	436 kg/頭
生乳生産量	7,565 トン	8,703 トン	1,138 トン
1頭当たり乳価	88.32 円/kg	88 円/kg	△ 0 円/kg
生乳販売代金	668,121 千円	765,864 千円	97,743 千円
初生牛販売頭数	391 頭	434 頭	43 頭
1頭当たり単価	118 千円/頭	118 千円/頭	0 千円/頭
初生牛販売金額	46,125 千円	51,212 千円	5,087 千円

項 目	現状(H26)	目標(H32)	KPI
性判別精液使用本数	97 本	150 本	53 本
判別精液受胎率	50.0 %	55.0 %	5.0 %
雌仔牛生産頭数	48 頭	82 頭	34 頭
黒毛受精卵移植卵数	46 卵	200 卵	154 卵
受精卵受胎率	50.0 %	53.0 %	3.0 %
黒毛ET産子生産頭数	23 頭	106 頭	83 頭
酪農ヘルパーの活用	397 回	500 回	103 回

※H27実績集積中

項 目	現状(H27)	目標(H32)	KPI
牧草作付面積	926.2 ha	951.6 ha	25.4 ha
牧草収量	3,170 kg/10a	3,470 kg/10a	300 kg/10a
牧草サイレージ生産量	29,361 トン	33,021 トン	3,660 トン
デントコーン作付面積	217.5 ha	233.5 ha	16.0 ha
デントコーン収量	5,470 kg/10a	5,970 kg/10a	500 kg/10a
デントコーンサイレージ生産量	11,897 トン	13,940 トン	2,043 トン

育成管理労働時間

項 目	現状(H27)	目標(H32)	KPI
年間1頭当たり労働時間	13.1 時間	0 時間	△ 13.1 時間
育成牛預託頭数	34 頭	55 頭	21 頭
労働費軽減(@1,000円)	13,100 円	0 円	△ 13,100 円

北海道農業生産技術体系 北海道農政部編

農家聞き取り調査、
乳検データ、JAと
うや湖販売取扱高、
酪農ヘルパー組合
事業報告書、坪刈調
査、育成牛預託契約
書、組合員勘定等に
より確認

■繁殖頭数	90	頭	増加	(平成32年度)
■和牛素牛販売頭数	80	頭	増加	(平成32年度)
■和牛素牛販売代金	50,171	千円	増加	(平成32年度)
■和牛肥育牛販売頭数	20	頭	増加	(平成32年度)
■和牛肥育販売代金	11,575	千円	増加	(平成32年度)

項 目	現状(H27)	目標(H32)	KPI
肉牛農家戸数(兼業含む)	43 戸	37 戸	△ 6 戸
繁殖牛頭数	1,301 頭	1,391 頭	90 頭
和牛素牛販売頭数	576 頭	656 頭	80 頭
和牛素牛販売金額	360,485 千円	410,656 千円	50,171 千円
和牛素牛販売単価	626 千円	626 千円	0 千円
和牛肥育牛販売頭数	189 頭	209 頭	20 頭
和牛肥育牛販売金額	218,325 千円	229,900 千円	11,575 千円
和牛肥育牛販売単価	1,155 千円	1,100 千円	△ 55 千円

項 目	現状(H26)	目標(H32)	KPI
黒毛受精卵移植卵数	46 卵	200 卵	154 卵
受精卵受胎率	50.0 %	53.0 %	3.0 %
黒毛ET産子生産頭数	23 頭	106 頭	83 頭
黒毛受精卵採卵戸数	2 戸	4 戸	2 戸
黒毛受精卵採卵頭数	10 頭	22 頭	12 頭
黒毛受精卵採卵個数	85 個	187 個	102 個

※H27実績集積中

項 目	現状(H27)	目標(H32)	KPI
牧草作付面積	498.1 ha	505.6 ha	7.5 ha
牧草収量	3,170 kg/10a	3,470 kg/10a	300 kg/10a
牧草生産量	15,790 トン	17,544 トン	1,755 トン

農家聞き取り調査、
JAとうや湖販売取
扱高、坪刈調査、組
合員勘定等により
確認

■繁殖豚頭数		1,472 頭	増加 (平成32年度)	
■肥育豚出荷頭数		40,220 頭	増加 (平成32年度)	
■肥育豚販売代金		1,093,713 千円	増加 (平成32年度)	
項 目	現状(H27)	目標(H32)	KPI	
養豚農家戸数	3 戸	3 戸	0 戸	
繁殖豚頭数	1,028 頭	2,500 頭	1,472 頭	
肥育豚出荷頭数	24,780 頭	65,000 頭	40,220 頭	
1腹当たりの離乳頭数	10.2 頭	10.7 頭	0.5 頭	
母豚当たりの生産頭数	23.8 頭	24.5 頭	0.7 頭	
肥育豚販売代金	986,287 千円	2,080,000 千円	1,093,713 千円	
肥育豚販売単価	39 千円	32 千円	△ 7 千円	
項 目	現状(H27)	目標(H32)	KPI	
エコフィールド利用農家戸数	2 戸	3 戸	1 戸	
飼料米利用量	4 トン	6 トン	2 トン	
ホエー・シロップ利用量	280 トン	1,400 トン	1,120 トン	
飼料軽減額	14,000 千円	70,000 千円	56,000 千円	
項 目	現状(H27)	目標(H32)	KPI	
堆肥還元	20,148 トン	54,732 トン	34,584 トン	
耕作地散布面積(4t/10a)	51.0 ha	136.8 ha	85.8 ha	
ビート・麦耕作面積	143.7 ha	163.7 ha	20.0 ha	

農家聞き取り調査、
JAとうや湖販売取扱高、ホクレンと畜場取扱実績・販売精算書、法人決算報告書、飼料用米利用契約書、ホエー・シロップ供給契約書、耕畜連携糞尿利用請求等により、組合員勘定等により確認

※ の事業を実施する場合には、その直接的な効果と連携による間接的な効果を記載。

※